

2020年度（令和2年度）
事業計画書



学校法人

和泉短期大学

2020.3.28

目 次

	ページ
1. 法 人	6
2. 短 期 大 学	9
3. 専 攻 科	20
4. キリスト教活動	22
5. 研 究 活 動	24
6. 委 員 会 活 動	41
7. 広 報 活 動	51
8. 施設・設備・経費	54
9. 財務計算書（5 か年推移）	57

和泉短期大学の沿革

1956 年 5 月 (昭和 31 年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が、米国財団クリスチャン・チルドレンズ・フエン ドの援助のもとに バット博士記念養成所 を設立、収容施設従事者を対象とする 諸々の現任訓練講習会を開催、従事者の技能研鑽を授け、以って我が国養護事業 内容充実に力を尽くした。
1960 年 5 月 (昭和 35 年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が我が国はじめての収容施設保母の養成を主眼 とした 玉川保母専門学院 を東京都世田谷区に開設、同時に 児童福祉研究所 を開 設して現任訓練及び研究事業を強化した。
1964 年 6 月 (昭和 39 年)	玉川保母専門学院並びに児童福祉研究所を母体とした和泉短期大学開設並びに 学校法人クラーク学園の設立準備に着手した。
1965 年 4 月 (昭和 40 年)	学校法人クラーク学園 設立認可、 眞鍋頼一氏 が理事長に就任した。同じく 和泉 短期大学 児童福祉科(定員 40 名)設立が認可され、 中島武夫氏 が学長に就任した。
1966 年 3 月 (昭和 41 年)	幼稚園教諭二級普通免許状 取得のための正規の課程として認定された。
1971 年 11 月 (昭和 46 年)	眞鍋頼一理事長逝去の為、理事 郷司浩平氏 が理事長に就任した。
1976 年 4 月 (昭和 51 年)	中島武夫学長退任、後任として常務理事 野口敏雄氏 が学長に就任した。
4 月	学生入学 定員 250 名 に変更認可された。
8 月	全学神奈川県相模原市の 新校舎に移転 した。
1978 年 2 月 (昭和 53 年)	郷司浩平理事長が退任、後任として理事 中島武夫氏 が理事長に就任した。
1981 年 2 月 (昭和 56 年)	中島武夫理事長逝去の為、理事 伊藤忠利氏 が理事長に就任した。
7 月	野口敏雄学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長代行として就任した。
1982 年 4 月 (昭和 57 年)	北原歌子学長代行退任、後任として教授 花村春樹氏 が学長に就任した。
1985 年 4 月 (昭和 60 年)	法人内に 和泉老人福祉専門学校 を開校した。(定員 80 名)
1986 年 6 月 (昭和 61 年)	伊藤忠利理事長が退任、後任として理事 阪田勝三氏 が理事長に就任した。
1988 年 3 月 (昭和 63 年)	和泉老人福祉専門学校が、厚生省より 介護福祉士養成校 としての指定認可を受 けた。(定員 100 名)
4 月	短大児童福祉科で 社会福祉士国家試験受験資格 の指定科目の開設を届出た。
1990 年 4 月 (平成 2 年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状 取得の課程として認可された。
1991 年 3 月 (平成 3 年)	社会福祉主事任用資格 の科目の届出を行い、同資格を取得可能とした。

1992 年 2 月 (平成 4 年)	保母養成課程が改訂され、学則変更を行って新しい保母養成課程として認定された。
4 月	和泉老人福祉専門学校の名称変更を行い、 和泉福祉専門学校 とした。
9 月	花村春樹学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長に就任した。
1995 年 4 月 (平成 7 年)	北原歌子学長退任、後任として 阪田勝三理事長 が学長に就任した。
1996 年 4 月 (平成 8 年)	阪田勝三理事長退任、後任として理事 平良氏 が理事長に就任した。 阪田勝三学長退任、後任として 讃岐和家氏 が学長に就任した。
1999 年 4 月 (平成 11 年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2000 年 4 月 (平成 12 年)	児童福祉科の名称変更を行い、 児童福祉学科 とした。
2001 年 4 月 (平成 13 年)	男女共学制度 を導入した。
2002 年 4 月 (平成 14 年)	讃岐和家学長退任、後任として教授 伊藤忠彦氏 が学長に就任した。
2006 年 5 月 (平成 18 年)	学校法人クラーク学園 創立 50 周年記念式典 が行われた。
2008 年 3 月 (平成 20 年)	(財) 短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
6 月	平良理事長 退任、後任として 伊藤忠彦学長 が理事長を兼任した。 (深町正信氏 が理事長に就任するまでの間)
10 月	伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 深町正信氏 が理事長に就任した。
2010 年 3 月 (平成 22 年)	和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を廃止した。
4 月	和泉短期大学に 専攻科介護福祉専攻 を開設した。(定員 20 名)
2013 年 4 月 (平成 25 年)	学校法人クラーク学園の名称変更を行い、 学校法人和泉短期大学 とした。
2014 年 4 月 (平成 26 年)	伊藤忠彦学長退任、後任として教授 佐藤守男氏 が学長に就任した。
2015 年 3 月 (平成 27 年)	(財) 短期大学基準協会の 2 回目の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2016 年 5 月 (平成 28 年)	法人創立 60 周年記念式典、祝賀会、記念講演を開催した。
2017 年 10 月 (平成 29 年)	児童福祉研究室設置
2019 年 1 月 (平成 31 年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。

設置学校 学校法人和泉短期大学

理事長 深町 正信 (ふかまち まさのぶ)

所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1

学 長 佐藤 守男 (さとう もりお)

設置学科名

入学定員

収容定員

児 童 福 祉 学 科 (2 年制)

250 名

500 名

専攻科介護福祉専攻 (1 年制)

20 名

20 名

建学の精神

キリスト教信仰に基づく教育と人格形成

教育理念

2016年2月24日教授会改訂

本学は、建学の精神であるキリスト教信仰に基づき、
スクールモットーである愛と奉仕を実践する人、
地域社会のあらゆる局面で積極的な貢献を成し得る人、
保育・福祉専門職として謙虚に学び続ける意志をもつ人への実力養成教育を授ける。

スクールモットー

愛と奉仕

「あなたがたの光を人々の前で輝かしなさい。」（聖書：マタイによる福音書第5章16節）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

本学の建学の精神（キリスト教信仰に基づく教育と人格形成）、スクールモットー（愛と奉仕）に基づくカリキュラムを履修して、卒業に必要な所定以上の単位を修得し、下記の要件を満たす学生に対し、短期大学士（児童福祉学）の学位を授与します。

1. 保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、基礎学力、幅広い教養、礼節を身につけ、多世代にわたる人々の人権を尊重できる。
2. 保育・福祉に関する専門的な学修を通じて、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。
3. 保育・福祉の専門的な価値観、知識・技能を修得し、自ら考える力、自ら行動する力、コミュニケーション能力を身につけている。
4. 保育・福祉の専門職として多角的な視点を持ち、共生社会の実現に向けて主体的かつ自律的に学び続け、愛と奉仕の精神を実践できる。

教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

本学は、Ⅰ教養、Ⅱ原理、Ⅲ知識・技能、Ⅳ実践の4科目群を配置しています。

Ⅰ教養は、キリスト教の精神を踏まえて、人々の権利を護り共に生きる人としての価値観を養うための科目

Ⅱ原理は、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕を実践する人間観を養うことができる科目

Ⅲ知識・技能は、子どもと子どもを取り巻く環境を知り、様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につけることができる科目

Ⅳ実践は、身につけた価値観・知識・技能を現場に即して実践し、共に成長する体験を積み中で学び直し、キャリア形成の基礎を培うことができる科目

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

【和泉短期大学が求める学生像】

和泉短期大学は、保育・福祉専門職として必要な価値観、知識・技能を修得し、建学の精神にもとづく愛と奉仕をもって、すべての人々が共に生きる社会の実現に貢献したいと考える人を求めています。

【入学希望者に期待される学習経験：児童福祉学科】

1. 高校内での保育・福祉に関する学び・経験（総合的な学習の時間、家庭科や社会科等における保育・福祉に関連する学び）の機会を得ること。
2. 保育・福祉現場等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得すること。

【入学希望者に期待される学習経験：専攻科介護福祉専攻】

1. 社会福祉に関する科目の学びに力を入れて取り組むこと。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 対人援助に関する科目での、自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）に関する学びに力を入れて取り組むこと。

2020 年度学校法人和泉短期大学基本構想

建 学 の 精 神 【キリスト教 信 仰 に 基 づく 教 育 と 人 格 形 成】

ス ク ー ル モ ッ ト ー 【愛と奉仕】【「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第 5 章 16 節】

学習成果の可視化
内部質保証方針

3 つのポリシーの見直し
アセスメントプランの
制定

理事長任期満了による退任
理事・監事・評議員の改選
ガバナンス体制の強化

3 号館改修工事
チラー（空調機の温度調整
循環装置）2 台取替更新
外壁改修工事

大学を取り巻く環境

18 才人口の減少	大学進学率		大学・短大の 財政赤字	大学の離学者・進路変更	短期大学 進学者の減少
	大 学	短期大学			
1992 年 205 万人 2020 年 117 万 2040 年 80 万人	1992 年度 24.6% 2019 年度 53.7%	11.7% 4.4%	2018 年度 大学 36.3% 短大 63.2%	2013 年度末 約 120,000 人 3.3% （経済的理由、学習意欲の喪失、 不本意入学、人間関係等） 非正規雇用の増加	専門学校への 進学者増加 年度 23.6%

今年度の目標と課題

1. ガバナンスとコンプライアンス体制の強化

私立学校法の改正に伴う寄附行為の一部改正により、理事・監事・評議員の機能の明確化、監事の職務権限の強化、中長期計画の策定、情報の公表。

学長、事務局長のリーダーシップの下、教職員が一致協力してガバナンスとコンプライアンス体制の一層の向上を行う。

4. 高大接続事業の継続

相模原市内高等学校校長と和泉短期大学との教育研究会」は11年連続して行っている。

現代の複雑・多様化した社会の中で教育の業に携わる高等学校教員と本学が連携して当面する教育の課題を共有する研究会を今後も継続して行っていく。

2. 入学定員の適正化の検討と専攻科存続問題

2017 年度から 2020 年度まで入学定員が未充足の状態が続いている。経常費補助金の傾斜配分もあり、適正な入学定員を検討し、早期に結論を出していく。また専攻科介護福祉専攻の存続問題は、将来検討委員会が慎重な討議を重ねてきた。設立時の超高齢化社会への使命感もあり、存続の方向で検討する。

5. 施設整備修繕計画

地球温暖化と異常気象による大型台風の大雨と強風の影響で大災害が各地で引き続き起きている。

このことに対応するため、丁寧で計画的な維持修繕計画を立て、補修工事を重点的に行っていく。

3. 地域密着型の短期大学としての貢献

子育てひろば「はっぴい」、「すまいいい」で地域の家庭支援活動を行っている。児童福祉研究室は「いっしょに子育て」を毎年度発行し、地域の自治会、公民館、保育所、幼稚園、施設、学校に配布し地元で奉仕している。

6. 「出るを制し、入るを図る」を基本に健全な大学運営を行う

学生数の減少、補助金の減額、低金利政策により収入は厳しさが増している。学校法人和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」など寄付金活動を強化する。

1.学校法人和泉短期大学

「2020年度事業計画」

理事長 深 町 正 信

2020 年度を迎えるにあたり、先ずこれから迎える時代を大まかに考えてみますと、人口減少が今後、ますます深刻化し、またグローバル化が進むであろうことが予測されます。

更に、技術革新の影響による経済社会の進展とそれを取り巻く環境が急速に変化することが予測されます。このような状況の中で、和泉短期大学はこれからも、なお一層、地元である相模原市民と諸学校から信頼される、開かれた存在となることを強く期待されていると思われます。そのためにも、和泉短期大学はこれまでもまして、地元に向けた新しい情報の開示を強く求められていると思われます。

2019 年 5 月に新聞やテレビ等で報道されたように、「学校教育法等の一部を改正する法律」が国会で成立致しました。更に、私立学校法についても役員の職務やその責任の明確化等に関する規定の整備、情報公開の充実、中期的な計画の作成等が盛り込まれています。学校法人和泉短期大学としては、2019 年 10 月に開催された第二回学校法人和泉短期大学評議員会、理事会に於いて、法人寄附行為等の一部改正について審議をし、改正をしたところであります。このことにより、和泉短期大学が今後益々自律性を担保しながら、「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神とし、和泉短期大学の教育と研究の改革を進めながら、他方では、公共性と社会的責任を負う教育機関としての責任と使命とをなお一層鮮明にしつつ、その責任を十分に果たしてまいりたいと強く願います。

次に、具体的には次の 6 つの項目を挙げます。第一に、現在、和泉短期大学は学長、事務局長のリーダーシップのもと、教職員が一致協力して、ガバナンスとコンプライアンスの効いた歩みを続けていますが、なお一層の向上に努めていきたいと願います。

第二に、2020 年度こそはこれまでの 4 年間の本学の受験者及び入学者の実績を踏まえて、入学定員の適正化を検討し、児童福祉学科の入学定員を現在の 250 名から 200 名に変更する案件の結論を出す必要があると思います。それと同時に、専攻科の入学定員は 20 名ですが、ここ数年の入学希望者は厳しい現状があります。しかし、歴史的にみれば、日本で最初の老人福祉専門学校として始めた本学としては、出来るならば、専攻科を存続していきたいと思慮するところです。毎年、実施されている介護福祉士国家試験では、本学の学生の合格率は全国レベルでも素晴らしい結果を出しているのです、なんとしても続けていきたいと願います。

第三に、新キャンパスの構築、スクールバス駐車場を整備するために新たな土地の購入等は相

手もあることですので、今後とも慎重に対応すべきだろうと考えます。地元密着型の本学としてはこれまで実施してきた子育て支援のための「はっぴい」や「すまいいい」の子育て広場や様々な地元への支援活動、更に、児童福祉研究室発行の「いっしょに子育て」を通じて、現在、子育てをしている地元の家庭のために地元密着型の和泉短期大学としての奉仕を続けていきたいと願います。

第四に、現在まで、第 11 回目を迎えている「相模原市内高等学校校長と和泉短期大学との教育研究会」は毎回充実した内容で実施してまいりましたが、これからも、現代の複雑な社会の中で、教育の業に関わる地元の高等学校の先生方と本学の先生方と互いに当面する教育の課題を共有するこの研究会は誠に意義深いことだろうと思いますので継続することを願います。

第五に、2019 年度を顧みてみますと、地球温暖化と異常気象による大型台風と大雨・強風の影響で大災害が全国各地で引き続いて起こりました。これに対応するために、本学としても必要最低限の校舎の補強工事を最優先して検討すべきであろうと思います。特に、今年度は今まで十分に出来なかった補修工事は実施したいと願います。

第六に、2020 年度は、学校法人和泉短期大学の経営状況は、厳しい現状になろうかと思われま
す。「出るを制して、入るを図る」をモットーにして、健全な大学の運営をしていくことが大事でありましょう。出来るだけ無駄を省き、節約の出来ることはしつつ、学校法人和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」や「教育環境充実資金」への寄付金活動の協力をお願いしていくことが今こそ、最も必要であろうと思われま

法人事業計画

○理 事 会

2020 年	5 月	29 日 (金)	理事会 (決算)	於：和泉短期大学
2020 年	6 月	6 日 (土)	理事会 (理事改選、理事長選出)	於：和泉短期大学
2020 年	10 月	24 日 (土)	理事会 (予算骨子)	於：和泉短期大学
2021 年	1 月	22 日 (金)	理事会	於：和泉短期大学
2021 年	3 月	19 日 (金)	理事会 (予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○評議員会

2020 年	5 月	29 日 (金)	評議員会 (決算)	於：和泉短期大学
2020 年	6 月	6 日 (土)	評議員会 (改選、監事承認)	於：和泉短期大学
2020 年	10 月	24 日 (土)	評議員会 (予算骨子)	於：和泉短期大学
2021 年	3 月	19 日 (金)	評議員会 (予算)	於：ユニコムプラザさがみはら

○学内運営協議会

➤ 出席者：理事長、学長、副学長、チャプレン、教務部長、事務局長、学生部長、庶務ユニットリーダー

2020 年	4 月	1 日 (水)	4 月	8 日 (水)	4 月	15 日 (水)	4 月	22 日 (水)
	4 月	29 日 (水)	5 月	13 日 (水)	5 月	20 日 (水)	5 月	27 日 (水)
	6 月	3 日 (水)	6 月	10 日 (水)	6 月	17 日 (水)	6 月	24 日 (水)
	7 月	1 日 (水)	7 月	8 日 (水)	7 月	15 日 (水)	7 月	22 日 (水)
	7 月	29 日 (水)	8 月	26 日 (水)	9 月	2 日 (水)	9 月	9 日 (水)
	9 月	16 日 (水)	9 月	23 日 (水)	9 月	30 日 (水)	10 月	7 日 (水)
	10 月	14 日 (水)	10 月	21 日 (水)	10 月	28 日 (水)	11 月	4 日 (水)
	11 月	11 日 (水)	11 月	18 日 (水)	11 月	25 日 (水)	12 月	2 日 (水)
	12 月	9 日 (水)	12 月	16 日 (水)				
2021 年	1 月	13 日 (水)	1 月	20 日 (水)	1 月	27 日 (水)	2 月	3 日 (水)
	2 月	10 日 (水)	2 月	17 日 (水)	2 月	24 日 (水)	3 月	3 日 (水)
	3 月	10 日 (水)	3 月	17 日 (水)	3 月	24 日 (水)		

○法人行事

2020 年	4 月	20 日 (月)	イースター礼拝
	5 月	11 日 (月)	創立記念礼拝
	6 月	1 日 (月)	ペンテコステ礼拝
	10 月	19 日 (月)	召天者記念礼拝
	11 月	30 日 (月)	クリスマスツリー点火祭
	12 月	5 日 (土)	クリスマス・コンサート
	12 月	14 日 (月)	クリスマス礼拝
2021 年	1 月	6 日 (水)	新年礼拝
	2 月	26 日 (金)	和泉スプリングコンサート

2.和泉短期大学

「2020年度事業計画」

学長 佐藤 守 男

和泉短期大学は今年5月で創立64周年を迎え、本学の卒業生は19,415名（2020年3月）となります。その卒業生のほとんどが、相模原市及び周辺自治体にある施設、幼稚園等で働いています。このように本学は「地域密着型」の短期大学であり、現在その卒業生たちの多くは、地域のリーダー的存在として素晴らしい働きをしています。

本学は日々の学びを通して専門的な知識・技術を修得するとともに、倫理性のある専門職の養成をめざし、実習と専門教育を重視した即戦力となる「実力養成型」の学びをしています。

ところで、2020年度を迎えるにあたり、少子化が進む中、18歳人口の減少により、大学・短期大学の経営も、大変に厳しいと予想されます。

日本私立学校振興・共済事業団の「2019年度の私立大学・短期大学入学志願動向」によりますと、入学定員未充足の大学は194校（33%）、短期大学は228校（76.8%）となっています。本学児童福祉学科におきましても2017年度から4年連続で入学定員250名を満たすことができませんでした。また、専攻科介護福祉専攻におきましても入学定員20名のところ15名（2020年度）でありました。また、今年は新型コロナウイルスによるパンデミックにより、世界経済は悪化し、中途退学者の数も増えると思われます。

現在の日本の少子高齢化社会において、「女性の社会進出」や「働き方改革」等により、ますます多くの保育所、介護施設等が必要となってくるでしょう。それに伴って、和泉短期大学は地域社会から保育士、幼稚園教諭、介護福祉士の養成がより一層求められてくることになると思われます。

本学は、これらの状況を調査・分析し、中期的な計画を作成し、「教育の質保証の充実」「教育研究と地域貢献との連動」「教学IRの学内理解」等、教学面における改善・改革を進め、「地元密着型」「実力養成型」の短期大学として、また、相模原市の「地域の生涯教育の拠点」として、「質の高い教育」をめざし「学生への支援」を一層強めて参りたいと思います。

2020 年度の主な取り組み

- 1) 児童福祉学科の入学定員（250 名）の適正化・見直し
- 2) 専攻科介護福祉専攻の存続のための検討
- 3) 教学 IR 体制の確立
 - ①専門職員の増員
 - ②IR 情報収集のための権限強化
 - ③積極的な教育情報の公開
- 4) 外部評価の充実
 - ①高等学校、保育所、幼稚園、認定こども園、自治体、産業界との協議体制確立
 - ②3 つのポリシー、自己点検評価、ディプロマサプリメント等の外部評価を実施
- 5) FD&SD の高度化
- 6) 教育活動の強化
 - ①学修成果の把握（アセスメントテスト等による調査測定）
 - ②時間割の検討（90 分から 105 分に）
 - ③初年次教育の強化
 - ④リメディアル教育の強化
 - ⑤情報リテラシー教育の強化
 - ⑥「履修系統図」の見直しと「ナンバリング」の実施
 - ⑦シラバスの確認（試験やレポートのフィードバック方法・試験週間の設置）
 - ⑧「成績評価基準」の設定（素点評価と GPA 評価）
 - ⑨「学生による授業評価」の実施時期の変更
 - ・授業回数 5～8 回目に実施し、学生の評価をその授業内に反映させる
 - ⑩教員間の授業参観による授業評価の改善
- 7) 地域連携活動の強化
 - ①児童福祉研究室の運営強化
 - ・「すまいいい」と協力し、保育・福祉に関する相談支援活動を実施
 - ②短期大学地域貢献事業コンソーシアムに加入
 - ③地域子育て支援プログラム「はっぴい」「すまいいい」の充実
 - ④「和泉スプリングコンサート」の充実
 - ⑤和泉保育園、バット博士記念ホームとの連携強化

(1) 学事予定

2020 年 4 月	1 日 (水)	入学式
	2 日 (木)	1 年、2 年、専攻科前期オリエンテーション① 2 年前期始業礼拝、実習授業 (2 時限)
	3 日 (金)	1 年、2 年、専攻科前期オリエンテーション② 1 年、専攻科教科書販売、健康診断
	6 日 (月)	1 年、2 年前期オリエンテーション③ 2 年教科書販売、健康診断 専攻科前期授業開始
	7 日 (火)	1 年前期オリエンテーション④ 1 年新入生研修会、2 年前期授業開始
	8 日 (水)	1 年前期授業開始
	18 日 (土)	オープンキャンパス①
	20 日 (月)	イースター礼拝
5 月	29 日 (水)	ホームカミングデー
	9 日 (土)	ミニオープンキャンパス①、はっぴい①
	11 日 (月)	創立記念礼拝 2020 年度第 1 回創立記念フェア
	12 日 (火)	高校教員対象進学説明会①
	13 日 (水)	高校教員対象進学説明会②
	15 日 (金)	創立記念日
	20 日 (水)	実習指導連絡会 (幼稚園)
	24 日 (日)	オープンキャンパス②
6 月	1 日 (月)	ペンテコステ礼拝
	3 日 (水)	FD 研修会
	6 日 (土)	1 年保育士を志す学生の集い、ミニオープンキャンパス②
	8 日 (月)	2 年現場実習 (幼稚園) 〈6 月 26 日 (金) まで〉 専攻科介護実習 I 〈6 月 15 日 (月) まで〉
	10 日 (水)	1 年避難・防災訓練、感謝の祈り
	13 日 (土)	はっぴい②
	14 日 (日)	オープンキャンパス③
	22 日 (月)	1 年幼稚園保育体験準備 (全教員)
7 月	24 日 (水)	ナイトミニオープンキャンパス①
	29 日 (月)	1 年幼稚園保育体験 (全教員)、2 年実習予備日
	1 日 (水)	かながわ高齢者福祉研究大会
	6 日 (月)	2020 年度第 2 回サマーフェア
	8 日 (水)	市内高校長との教育研究会
	11 日 (土)	ミニオープンキャンパス③、はっぴい③
	19 日 (日)	オープンキャンパス④
	20 日 (月)	前期終了感謝礼拝
	23 日 (木)	ホームカミングデー
	24 日 (金)	ホームカミングデー
	25 日 (土)	ミニオープンキャンパス④ 専攻科前期定期試験①
	27 日 (月)	1 年前期授業終了、専攻科 i 日程入試①
	28 日 (火)	専攻科前期授業終了
	29 日 (水)	1 年前期定期試験① 専攻科介護実習 I (訪問介護) 〈8 月 7 日 (金) まで〉
	30 日 (木)	1 年前期定期試験②
	31 日 (金)	1 年夏期休業開始 〈8 月 30 日 (日) まで〉 2 年前期授業中断

8月	1日(土)	2年夏期休業開始〈8月23日(日)まで〉 オープンキャンパス⑤ おもちゃインストラクター養成講座
	3日(月)	高大接続授業研究プログラム
	8日(土)	専攻科夏期休業開始〈8月30日(日)まで〉
	17日(月)	インターナショナル・フィールドワーク海外研修〈8月21日(金)まで〉
	19日(水)	1年、専攻科成績報告書締切日
	22日(土)	オープンキャンパス⑥
	23日(日)	2年夏期休業終了
	24日(月)	1年一般教養試験対策講座〈27日(木)まで〉 2年前期授業再開
	27日(木)	専攻科前期定期試験②
	28日(金)	専攻科前期定期試験③
	29日(土)	普通救命講習Ⅲ(幼児・乳児・新生児)
	30日(日)	1年、専攻科夏期休業終了
	31日(月)	1年、専攻科後期始業礼拝、オリエンテーション、 前期再試験発表
9月	1日(火)	専攻科後期授業開始
	2日(水)	1年前期再試験〈3日(木)まで〉 専攻科前期再試験〈4日(金)まで〉
	3日(木)	2年前期定期試験①
	4日(金)	2年前期授業終了
	5日(土)	2年前期定期試験②、ミニオープンキャンパス⑤
	7日(月)	1年後期授業開始 2年現場実習(保育所・児童福祉施設)〈9月24日(木)まで〉
	12日(土)	総合型選抜Ⅰ期9月①、はっぴい④
	16日(水)	ナイトミニオープンキャンパス②
	18日(金)	2年成績報告書締切日
	19日(土)	総合型選抜Ⅰ期9月②
	21日(月)	ホームカミングデー
	22日(火)	ホームカミングデー
	23日(水)	ナイトミニオープンキャンパス③
	25日(金)	2年実習予備日
	26日(土)	2年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、 前期再試験発表 総合型選抜Ⅰ期9月③
	28日(月)	2年後期授業開始
	30日(水)	2年前期再試験〈10月2日(金)まで〉、専攻科実習連絡会
10月	3日(土)	神奈川県3短期大学体育大会(湘北短大)
	10日(土)	ミニオープンキャンパス⑥
	16日(金)	2020年度第3回サンクスギビングフェア
	17日(土)	総合型選抜Ⅱ期10月①、専攻科i日程入試② はっぴい⑤
	19日(月)	召天者記念礼拝
	24日(土)	総合型選抜Ⅱ期10月②
	30日(金)	学生祭週間〈11月2日(月)まで〉
	31日(土)	いずみ祭〈11月1日(日)まで〉
11月	1日(日)	ミニオープンキャンパス⑦
	2日(月)	専攻科介護実習Ⅱ〈11月27日(金)まで〉
	3日(火)	ホームカミングデー
	7日(土)	学校推薦型選抜[指定校Ⅰ期、公募、家族、専門、キリスト者]、 総合型選抜Ⅲ期11月①

11月	11日 (水)	専攻科帰校日
	18日 (水)	実習指導連絡会 (保育所／施設)
	21日 (土)	ミニオープンキャンパス⑧
	23日 (月)	ホームカミングデー
	28日 (土)	学校推薦型選抜 (指定校Ⅱ期)、総合型選抜Ⅲ期 11月② 専攻科A日程入試
	30日 (月)	クリスマスツリー点火祭
12月	2日 (水)	専攻科介護協学力評価テスト
	5日 (土)	はっぴい⑥、入学前教育①、1年神奈川県保育のつどい、 ミニオープンキャンパス⑨
	7日 (月)	アドベント礼拝
	11日 (金)	2020年度第4回クリスマスフェア
	12日 (土)	総合型選抜Ⅳ期 12月
	14日 (月)	クリスマス礼拝
	21日 (月)	1年後期定期試験①
	22日 (火)	冬期休業開始 (1年・2年：2021年1月6日 (水) まで、 専攻科：2021年1月5日 (火) まで)
2021年 1月	5日 (火)	専攻科冬期休業終了
	6日 (水)	新年礼拝、1年、2年冬期休業終了 専攻科国家試験対策学内テスト (午後)
	7日 (木)	1年後期定期試験②、実習授業 (2時限) 2年、専攻科後期授業再開
	8日 (金)	1年後期授業再開、後期授業終了
	9日 (土)	1年後期定期試験③ 入学前教育②、はっぴい⑦
	12日 (火)	1年現場実習 (保育所) (1月27日 (水) まで)
	16日 (土)	総合型選抜Ⅴ期 1月、社会人特別選抜入試 専攻科B日程入試
	20日 (水)	1年成績報告書締切日 専攻科国家試験対策講座 (22日 (金) まで)
	23日 (土)	和泉プレカレッジ、ミニオープンキャンパス⑩
	25日 (月)	2年、専攻科後期終了感謝礼拝
	29日 (金)	2年後期授業終了
2月	1日 (月)	1年後期再試験発表、実習授業 (1,2時限) 2年後期定期試験 (3日 (水) まで)
	2日 (火)	一般選抜、専攻科C日程入試
	3日 (水)	1年実習授業 (1,2時限)
	4日 (木)	2年追再実習 (2月26日 (金) まで) 入学前ピアノレッスン① 専攻科後期授業終了
	5日 (金)	2年追再実習追加分 (幼稚園) (8日 (月)、9日 (火) まで) 専攻科後期定期試験 (8日 (月)、9日 (火) まで)
	6日 (土)	はっぴい⑧
	8日 (月)	1年現場実習 (児童福祉施設) (2月25日 (木) まで)
	9日 (火)	2年成績報告書締切日
	10日 (水)	入学前教育③
	15日 (月)	2年後期再試験発表
	16日 (火)	専攻科成績報告書締切日
	17日 (水)	総合型選抜Ⅴ期 2月
	18日 (木)	入学前ピアノレッスン②
	19日 (金)	2年後期再試験
	22日 (月)	専攻科後期再試験発表

2月	26日(金)	専攻科後期再試験 和泉スプリングコンサート
	27日(土)	2年追再実習者再試験
3月	1日(月)	1年実習授業(1時限)、1年後期再試験(2日(火)まで) 総合型選抜Ⅴ期3月、専攻科D日程入試
	3日(水)	おもちゃインストラクター養成講座 2021年度全教員打合せ会
	4日(木)	入学前ピアノレッスン③
	6日(土)	はっぴい⑨
	8日(月)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝、修了証書授与式予行練習
	9日(火)	2年卒業証書・学位記授与式、専攻科修了証書授与式
	10日(水)	FD・SD研修会、入学前教育④
	27日(土)	オープンキャンパス⑦

(2) 実習

2020年	6月	8日(月)	～6月26日(金)	2年幼稚園
	6月	8日(月)	～6月15日(月)	専攻科介護実習Ⅰ
	7月	29日(水)	～8月7日(金)	専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)
	9月	7日(月)	～9月24日(木)	2年保育所・児童福祉施設
	11月	2日(月)	～11月27日(金)	専攻科介護実習Ⅱ
2021年	1月	12日(火)	～1月27日(水)	1年保育所
	2月	4日(木)	～2月26日(金)	2年追再実習
		5日(金)	～2月9日(火)	2年追再実習追加分(幼稚園)
		8日(月)	～2月25日(木)	1年児童福祉施設

2021 年度 児童福祉学科 入試日程

・総合型選抜Ⅰ期 9月①

2020 年 5 月 1 日（金）より Web サイトにて予約受付	予 約
2020 年 8 月 31 日（月）	予 約 期 限
2020 年 9 月 1 日（火）～9 月 4 日（金）16 時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2020 年 9 月 12 日（土） 午前・午後	1 回目面談日
2020 年 9 月 14 日（月）	出願許可判定教授会
2020 年 9 月 15 日（火）	出願許可通知発送日
2020 年 10 月 1 日（木）～10 月 9 日（金） 9 日間	出願手続期間
2020 年 10 月 12 日（月）	内定通知書発送日
2020 年 11 月 7 日（土）	合否判定教授会（追認）
2020 年 11 月 2 日（月）	合格通知発送日
2020 年 11 月 4 日（水）～11 月 18 日（水） 15 日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅰ期 9月②

2020 年 5 月 1 日（金）より Web サイトにて予約受付	予 約
2020 年 8 月 31 日（月）	予 約 期 限
2020 年 9 月 1 日（火）～9 月 12 日（土）16 時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2020 年 9 月 19 日（土） 午前・午後	2 回目面談日
2020 年 9 月 21 日（月）	出願許可判定教授会
2020 年 9 月 22 日（火）	出願許可通知発送日
2020 年 10 月 1 日（木）～10 月 9 日（金） 9 日間	出願手続期間
2020 年 10 月 12 日（月）	内定通知書発送日
2020 年 11 月 7 日（土）	合否判定教授会（追認）
2020 年 11 月 2 日（月）	合格通知発送日
2020 年 11 月 4 日（水）～11 月 18 日（水） 15 日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅰ期 9月③

2020 年 5 月 1 日（金）より Web サイトにて予約受付	予 約
2020 年 8 月 31 日（月）	予 約 期 限
2020 年 9 月 1 日（火）～9 月 19 日（土）16 時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2020 年 9 月 26 日（土） 午後	3 回目面談日
2020 年 9 月 28 日（月）	出願許可判定教授会
2020 年 9 月 29 日（火）	出願許可通知発送日
2020 年 10 月 1 日（木）～10 月 9 日（金） 9 日間	出願手続期間
2020 年 11 月 7 日（土）	合否判定教授会（追認）
2020 年 10 月 12 日（月）	内定通知書発送日
2020 年 11 月 2 日（月）	合格通知発送日
2020 年 11 月 4 日（水）～11 月 18 日（水） 15 日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅱ期 10月①

2020年5月1日（金）よりWeb サイトにて予約受付	予 約
2020年 8月31日（月）	予 約 期 限
2020年 9月28日（月）～10月10日（土）16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2020年10月17日（土） 午前・午後	1回目面談日
2020年10月19日（月）	出願許可判定教授会
2020年10月20日（火）	出願許可通知発送日
2020年10月22日（木）～10月30日（金） 9日間	出願手続期間
2020年11月7日（土）	合否判定教授会（追認）
2020年11月2日（月）	合格通知発送日
2020年11月4日（水）～11月18日（水） 15日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅱ期 10月②

2020年5月1日（金）よりWeb サイトにて予約受付	予 約
2020年 8月31日（月）	予 約 期 限
2020年 9月28日（月）～10月17日（土）16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2020年10月24日（土） 午前・午後	2回目面談日
2020年10月26日（月）	出願許可判定教授会
2020年10月27日（火）	出願許可通知発送日
2020年10月28日（水）～11月2日（月） 6日間	出願手続期間
2020年11月7日（土）	合否判定教授会（追認）
2020年11月4日（水）	合格通知発送日
2020年11月5日（木）～11月19日（木） 15日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅲ期 11月①

2020年5月1日（金）よりWeb サイトにて予約受付	予 約
2020年 9月30日（水）	予 約 期 限
2020年 10月26日（月）～10月30日（金）16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2020年11月7日（土） 午後	1回目面談日
2020年11月7日（土）	出願許可判定教授会
2020年11月8日（日）	出願許可通知発送日
2020年11月9日（月）～11月16日（月） 8日間	出願手続期間
2020年11月25日（水）	合否判定教授会（追認）
2020年11月18日（水）	合格通知発送日
2020年11月19日（木）～12月3日（木） 15日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅲ期 11 月②

2020 年 5 月 1 日（金）より Web サイトにて予約受付	予 約
2020 年 9 月 30 日（水）	予 約 期 限
2020 年 10 月 26 日（月）～11 月 21 日（土）16 時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2020 年 11 月 28 日（土） 午前・午後	2 回目面談日
2020 年 11 月 30 日（月）	出願許可判定教授会
2020 年 12 月 1 日（火）	出願許可通知発送日
2020 年 12 月 3 日（木）～12 月 7 日（月） 5 日間	出願手続期間
2020 年 12 月 14 日（月）	合否判定教授会（追認）
2020 年 12 月 9 日（水）	合格通知発送日
2020 年 12 月 10 日（木）～2020 年 12 月 21 日（月） 12 日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅳ期 12 月

2020 年 5 月 1 日（金）より Web サイトにて予約受付	予 約
2020 年 10 月 31 日（土）	予 約 期 限
2020 年 11 月 30 日（月）～12 月 5 日（土）16 時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2020 年 12 月 12 日（土） 午前・午後	面談日
2020 年 12 月 14 日（月）	出願許可判定教授会
2020 年 12 月 15 日（火）	出願許可通知発送日
2020 年 12 月 16 日（水）～2020 年 12 月 21 日（月） 6 日間	出願手続期間
2021 年 1 月 18 日（月）	合否判定教授会（追認）
2020 年 12 月 23 日（水）	合格通知発送日
2020 年 12 月 24 日（木）～1 月 8 日（金） 16 日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅴ期 1 月

2020 年 5 月 1 日（金）より Web サイトにて予約受付	予 約
2020 年 11 月 30 日（月）	予 約 期 限
2020 年 12 月 14 日（月）～2021 年 1 月 8 日（金）16 時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出 ※但し、12 月 25 日（金）～1 月 5 日（火）の期間を除く	エントリーシート提出期間
2021 年 1 月 16 日（土） 午前・午後	面談日
2021 年 1 月 18 日（月）	出願許可判定教授会
2021 年 1 月 19 日（火）	出願許可通知発送日
2021 年 1 月 20 日（水）～1 月 25 日（月） 6 日間	出願手続期間
2021 年 1 月 27 日（水）	合否判定教授会（追認）
2021 年 1 月 27 日（水）	合格通知発送日
2021 年 1 月 28 日（木）～2 月 12 日（金） 16 日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅴ期 2 月

2020 年 5 月 1 日（金）より Web サイトにて予約受付	予 約
2020 年 12 月 31 日（木）	予 約 期 限
2021 年 1 月 18 日（月）～2 月 10 日（水）16 時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2021 年 2 月 17 日（水） 午前	面談日
2021 年 2 月 17 日（水）	出願許可判定教授会
2021 年 2 月 18 日（木）	出願許可通知発送日
2021 年 2 月 19 日（金）～2 月 24 日（水） 6 日間	出願手続期間
2021 年 3 月 2 日（火）	合否判定教授会（追認）
2021 年 2 月 26 日（金）	合格通知発送日
2021 年 3 月 1 日（月）～3 月 8 日（月） 8 日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅴ期 3 月

2020 年 5 月 1 日（金）より Web サイトにて予約受付	予 約
2021 年 1 月 31 日（日）	予 約 期 限
2021 年 2 月 4 日（木）～2 月 24 日（水）16 時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2021 年 3 月 1 日（月） 午前	面談日
2021 年 3 月 2 日（火）	出願許可判定教授会
2021 年 3 月 3 日（水）	出願許可通知発送日
2021 年 3 月 4 日（木）～3 月 10 日（水） 7 日間	出願手続期間
2021 年 4 月 1 日（木）追認	合否判定教授会（追認）
2021 年 3 月 12 日（金）	合格通知発送日
2021 年 3 月 15 日（月）～3 月 19 日（金） 5 日間	入学手続期間

・学校推薦型選抜（指定校推薦Ⅰ期、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦、公募推薦、専門
高校推薦）

2020 年 11 月 1 日（日）～11 月 5 日（木）16 時迄 5 日間 郵送は 4 日（水）消印有効。窓口は 5 日（木）16 時迄	願 書 受 付 期 間
2020 年 11 月 7 日（土） 午前及び午後	入学選考日
2020 年 11 月 7 日（土）	合否判定教授会
2020 年 12 月 1 日（火）	合否通知発送日
2020 年 12 月 2 日（水）～12 月 11 日（金） 10 日間	入学手続期間

※5 日に到着した分については、受験票を学内で預り、試験当日受験生に渡す。

※5 日に受験生のメールアドレスに、受験票を PDF にしてメールでお知らせする。

試験当日に、メールの受験票画面を確認して、受験票を本人に渡す。

※指定校推薦のグループ分けの際、同じ高校の受験生が重なることもある旨を学内に周知する。

・学校推薦型選抜（指定校推薦Ⅱ期）

2020 年 11 月 9 日（月）～11 月 20 日（金）16 時迄 12 日間 郵送は 18 日（水）消印有効。窓口は 20 日（金）16 時迄	願 書 受 付 期 間
2020 年 11 月 28 日（土） 午前	入学選考日
2020 年 11 月 30 日（月）	合否判定教授会
2020 年 12 月 1 日（火）	合否通知発送日
2020 年 12 月 2 日（水）～12 月 11 日（金） 10 日間	入学手続期間

・社会人特別選抜

2020年12月14日(月)～1月9日(土)16時迄 27日間 郵送は7日(木)消印有効。窓口は9日(土)16時迄 ※但し、12月25日(金)～1月5日(火)の期間を除く	願 書 受 付 期 間
2021年1月16日(土) 午前	入 学 試 験 日
2021年1月18日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2021年1月19日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2021年1月20日(水)～1月29日(金) 10日間	入 学 手 続 期 間

・一般選抜

2021年1月19日(火)～1月26日(火)16時迄 8日間 郵送は25日(月)消印有効。窓口は26日(火)16時迄	願 書 受 付 期 間
2021年2月2日(火) 午前	入 学 試 験 日
2021年2月3日(水)	合 否 判 定 教 授 会
2021年2月3日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2021年2月4日(木)～2月12日(金) 9日間	入 学 手 続 期 間

神奈川県委託訓練生 専門人材育成コース（保育士）

ハローワーク、神奈川県立東部総合職業技術校、人材育成 支援センター 各地区のハローワーク扱い	募集期間
	2021年2月末、 3月中旬(予定)

3. 専攻科介護福祉専攻

1. 介護福祉士国家試験対策に強い教育体制の構築

介護福祉士国家試験対策

- ① 介護協学力評価テスト(12月)
- ② 国家試験対策学内テスト(1月)
- ③ 学内国家試験対策(3日間)
- ④ 学力評価テストや国家試験対策学内テストの結果を学生に視覚化し指導

2. 専攻科入学者数の増加を図る

- (1) 全学的な取り組みとして児童福祉学科のグループアドバイザーの協力を得る
 - (ア) 4月1年生、2年生にオリエンテーションで説明
 - (イ) 5月2年生への周知をする
 - (ウ) 9月2年生へ福祉系の教員より専攻科入学を勧める。また学生支援との連携を図る
 - (エ) オープンキャンパスで専攻科修了生による広報活動
 - (オ) オープンキャンパスでの高校生や家族への広報
 - (カ) 専攻科の実習室のパネルを作成し、専攻科説明を実施
 - (キ) オープンキャンパスや保証人会を通して、家族への広報
 - (ク) 専攻科の公開授業を継続
- (2) 同総会会誌に専攻科のチラシで広報
- (3) 5月頃に聖ヶ丘教育福祉専門学校 専攻科に入学案内を実施

3. 実習の充実

- (1) 高齢者ふれあい体験の実施
- (2) 施設見学実習の実施
- (3) 学生個々に応じた実習指導の充実
- (4) 新カリキュラムに向けた実習内容を検討
- (5) 実習巡回指導の充実
- (6) 事例研究の指導
- (7) 事例研究発表会の開催
- (8) 事例集の作成
- (9) 実習連絡会の開催
- (10) 高齢者・障がい施設へのボランティアの充実

4. 就業力支援

- (1) かながわ高齢者福祉研究大会への参加
- (2) 専攻科修了生による職場体験の発表
- (3) 特別講義の実施

5. 地域貢献活動

- (1) 相模原市高齢者福祉協議会主催の研修の講師とし、介護職員のスキルアップ支援
- (2) 相模原市高齢者福祉協議会と共同し、介護福祉士資格取得のための支援
- (3) 相模原市高齢者福祉協議会と共同し、初任者研修の企画と会場提供
- (4) 青葉2丁目の町内会と専攻科学生の連携

6. 専攻科10年の歩みの検討

2021 年度 専攻科介護福祉専攻 入試日程

・ i 日程①(学内、卒業見込者対象)

2020 年 7 月 3 日(金)～7 月 17 日(金)16 時 15 日間 最終日必着または窓口提出	願 書 受 付 期 間
2020 年 7 月 27 日(月)	入 学 試 験 日
2020 年 7 月 29 日(水)	合 否 判 定 教 授 会
2020 年 7 月 30 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2020 年 7 月 31 日(金)～8 月 28 日(金) 29 日間	入 学 手 続 期 間

・ i 日程②(学内、卒業見込者対象)

2020 年 9 月 28 日(月)～10 月 10 日(土)16 時迄 12 日間 最終日必着または窓口提出	願 書 受 付 期 間
2020 年 10 月 17 日(土)	入 学 試 験 日
2020 年 10 月 19 日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2020 年 10 月 20 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2020 年 10 月 22 日(木)～10 月 30 日(金) 9 日間	入 学 手 続 期 間

・ A 日程

2020 年 10 月 26 日(月)～11 月 21 日(土)16 時迄 27 日間 郵送は 19 日(木)消印有効。窓口は 21 日(土)16 時迄	願 書 受 付 期 間
2020 年 11 月 28 日(土)	入 学 試 験 日
2020 年 11 月 30 日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2020 年 12 月 1 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2020 年 12 月 2 日(水)～12 月 11 日(金) 10 日間	入 学 手 続 期 間

・ B 日程

12 月 14 日(月)～2021 年 1 月 8 日(金)16 時 26 日間 郵送は 5 日(火)消印有効。窓口は 8 日(金)16 時まで ※但し、12 月 25 日(金)～1 月 5 日(火)の期間を除く	願 書 受 付 期 間
2021 年 1 月 16 日(土)	入 学 試 験 日
2021 年 1 月 18 日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2021 年 1 月 19 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2021 年 1 月 20 日(水)～1 月 29 日(金) 10 日間	入 学 手 続 期 間

・ C 日程

2021 年 1 月 19 日(火)～1 月 26 日(火)16 時 8 日間 郵送は 25 日(月)消印有効。窓口は 26 日(火)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2021 年 2 月 2 日(火)	入 学 試 験 日
2021 年 2 月 3 日(水)	合 否 判 定 教 授 会
2021 年 2 月 3 日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2021 年 2 月 4 日(木)～2 月 12 日(金) 9 日間	入 学 手 続 期 間

・ D 日程

2021 年 2 月 4 日(木)～2 月 24 日(水)16 時 21 日間 郵送は 22 日(月)消印有効。窓口は 24 日(水)16 時まで	願 書 受 付 期 間
2021 年 3 月 1 日(月)	入 学 試 験 日
2021 年 3 月 2 日(火)	合 否 判 定 教 授 会
2021 年 3 月 3 日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2021 年 3 月 4 日(木)～3 月 10 日(水) 7 日間	入 学 手 続 期 間

4. キリスト教活動

1. 概要

本学での学びを経て、人を教え、育て、支える担い手となる学生一人ひとりが聖書の教えを深く理解することで、神を敬う心と隣人に仕える心が培われることを目指し、下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、宗教部長、教授会構成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。

3. 活動内容

3-1 年間聖句

一年間を通して学生と教職員の学園生活を導いてくださる神様からの御言葉として年間聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載し、各人が心に留めることができるようにする。

2020 年度年間聖句「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている」（イザヤ書 43 章 19 節）とする。

3-2 始業礼拝

前期・後期の始業時に学びと学生生活が守られるように礼拝を捧げる。

3-3 チャペルアワー

本学の建学の精神に基づくスクールモットー「愛と奉仕」について礼拝を通し理解を深める。聖書の御言葉を聴き、説教者や奨励者を通して語られるメッセージに触れ、賛美と感謝と祈りを捧げる礼拝を、毎週月曜日にチャペルアワーとして計画し実施する。前期・後期終了感謝礼拝、卒業・修了感謝礼拝を含め、年間 33 回チャペルアワーを開催する。

3-4 特別礼拝（下記の特別礼拝を計画、実施する。）

- 1) イースター礼拝（4 月 20 日）
- 2) 創立記念礼拝（5 月 11 日）（キャリアデザインⅠ）
- 3) ペンテコステ礼拝（6 月 1 日）
- 3) 召天者記念礼拝（10 月 19 日）
- 4) クリスマスツリー点火祭（11 月 30 日）
- 5) クリスマス礼拝（12 月 14 日）（キャリアデザインⅠ）
- 6) 卒業・修了感謝礼拝（3 月 8 日）

3-5 新入生研修会

4 月 7 日（火）に新入生研修会を実施する。宗教部オリエンテーションと礼拝、講演を通して、今後の学びの礎を培う。（講師：江原美歌子氏）

3-6 クリスマスコンサート（子育て支援プログラム「はっぴい」と共催）

12 月に子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

3-7 チャイルド・ファンด์・ジャパンの里親支援と全国の児童福祉施設等への支援

チャペルアワーと特別礼拝等での献金をチャイルド・ファンด์・ジャパンのスポンサーシッププログラム、及び児童福祉施設、関連団体等の活動支援のために送る。

3-8 和泉クリスチャン・フェローシップ (I. C. F.)

聖書に親しむことを通して学生同士および教員との交流を深めるとともに、キリスト教活動を豊かに経験する。

3-9 学生聖歌隊

讃美歌、子ども讃美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともにキリスト教音楽に親しみ、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕のための練習を中心に活動する。チャペルアワー、特別礼拝、学内諸行事にて賛美の奉仕を行う。

3-10 ハンドベル・クワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」「ハンドベルⅢ」「ハンドベルⅣ」と連携し、科目担当者・履修生によるチャペルアワー、特別礼拝等での演奏の奉仕、クリスマス関連行事での演奏を行う。また学外からの依頼演奏にも適宜対応する。

3-11 教会紹介

掲示や、チャペルアワーでのチラシ配布などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」の授業と連携する。

4. 2020年度の重点課題

4-1 チャペルアワーの充実

全学的にチャペルアワーへの出席を促す。キリスト教に基づく建学の精神を理解できる機会として関心を持ち、参加しようと思える雰囲気を作ることを目指す。クラークホールの宗教的環境の素晴らしさを折々に伝える。チャペル委員から学生への呼びかけを積極的に行えるよう、委員の役割についても周知し、それぞれの役割を遂行するよう促していく。また、ポートフォリオのチャペルアワーシートの活用や、他教員の協力を得て授業等で働きかけていくことを通し、チャペルアワーの恵みと学びの蓄積を、一人ひとりが記録として残す取り組みを継続する。

4-2 学生のキリスト教活動の支援

チャペル委員会の活動の一環として年間3回の委員会を開催する。さらに、いずみ祭への展示発表参加、クリスマスツリー点火祭の企画運営など学生主体の活動になるよう支援する。

学生聖歌隊の活動が安定的に継続していくことをめざし、参加への呼びかけを年間を通して行う。I. C. F. の月例会（聖書輪読会・祈祷会）への参加を促すためにキリスト教推薦入学生などの対象者への呼びかけを積極的に行い活動の充実を図る。

いずれの活動も神様の恵みのもとに、感謝と喜びをもって、自発的に奉仕を続けていけるように促す。

4-3 地域に開かれたキリスト教活動の展開

地域に開かれたキリスト教学校として、地域貢献を高めることを目指す。クリスマスツリー点火祭、クリスマスコンサート、和泉スプリングコンサート、授業科目「ハンドベル」の学外での依頼演奏などを通じ、近隣の方々との関わりを大切にする。

5. 研 究 活 動

佐 藤 守 男 教授

【研究課題】

1. 彫刻等の表現（形・素材）の可能性について
2. 日本や欧米の美術館・画廊の調査研究

【教育課題】

1. 造形表現の教材研究

【学会参加予定】

個展、グループ展、日本美術家連盟、
民族藝術学会、日本臨床死生学会 他

武 石 宣 子 特任教授

【研究課題】

1. リトミック教育(リズム運動・ソルフェージュ・即興演奏を含む)に関する研究
2. 音楽と身体表現を媒介とした脳育成法（乳幼児及び高齢者）
3. プラスティック・アニメの研究（子どもの歌を題材、小道具を用いて）
4. 子どもの歌の簡易伴奏法の研究（アレンジ法、前奏後奏の工夫）
5. 動きのイメージが広がる保育現場のための表現教育の研究
6. 子どもと音楽（ML・ピアノ）に関する教材研究
7. 子どもと音楽（ML・ピアノ）に関する満足度調査
8. 動きの為の即興（声・身体・楽器を用いての誰でも簡単にできる工夫）

【教育課題】

1. リトミック（選択教科目）の授業内容、授業運営の工夫
2. 子どもと音楽（ML・ピアノ）の授業内容、授業運営の工夫
3. 親子リトミック（親子ふれあい遊び、子育て支援）の指導方法の充実
4. 教育法：《ダルクローズ・リトミック》（0歳～高齢者まで）

【学会参加予定】

大学教育学会 日本保育学会 日本音楽教育学会
日本ダルクローズ音楽教育学会 大学音楽教育学会
日本乳幼児教育学会 日本キリスト教社会福祉学会
日本保育者養成教育学会 初年次教育学会
日本レジャー・レクリエーション学会
アクティビティ・サービス協議会 幼児音楽研究会

松 浦 浩 樹 教授

【研究課題】

1. 「子どもの遊びの充実と拠点の必要性について」（その3）
継続研究として、テーマ設定の変更：(旧)「子どもの遊びの充実と中心性について」（その3）
関連研究として、「子どもの遊びの充実と秩序感の生成過程について」

2. 幼児期における両義的認識の発達過程について
3. キリスト教保育の現状と課題
4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究（～2015 年まで）
5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究（～随時継続）
6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究（～2012 年まで）
7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題（～2015）、保育就業力育成プログラムの現状と課題
8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題（テーマ「施設化する生」の継続的研究）
9. 「大学講義科目におけるアクティブラーニングの可能性 ―保育原理・教育原理における実践と省察―

上記テーマに基づき、協力園（幼稚園・保育園）での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ 6、7 に関して、学内で関与する学生、保護者（親子）との実際のなかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

10. 教育目的の潜在性と出会いとしての真実の探求

【教育課題】

1. 短大における学び・保育者への学びについての態度変容について、新入生に対して「保育原理」・2 年生に対して「教育原理」の授業の中で、主にアクティブラーニングを通じて実践していくこと。さらに、今年度は保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに相關させるプログラムの開発と工夫に努力する。
2. 上記の取り組みを通じて、教育・保育の目的論（潜在性と教育的配慮の真実性）を明確に学ばせる。
3. 「保育原理」、「教育原理」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際的なデータ（事例・ビデオ）を収集すると共に、これらを学生に還元し、人間現象を考察する力・人間教育としての保育への理解を促進する。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本キリスト教教育学会
4. 子どもと保育総合研究所・所員研究会
5. OMEP（世界幼児教育機構）日本委員会 国際共同研究
6. キリスト教保育実践研究会
7. キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
8. キリスト教保育連盟 保育実践研究委員会・委員長
9. 保育教諭養成課程研究会（文科省重点課程研究）
10. 全国保育士養成協議会（平成 29 年度第 56 回大会）実行委員
11. 日本キリスト教教育学会論集編集委員会 事務局 担当

【社会的活動】

1. キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
2. 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
3. 相模原市保育士会所属保育園の継続的保育観察と研究指導
4. 学校法人雲柱社松沢幼稚園：評議員

5. 学校法人宮の台幼稚園：理事
6. 学校法人愛育学園愛育養護学校（特別支援学校）：評議員
7. 学校法人椿学園でんえん幼稚園：理事
8. 学校法人相愛学園武蔵野相愛幼稚園：評議員
9. 社会福祉法人御殿場コロニー野菊寮：監事
10. 社会福祉法人相模和泉福社会和泉保育園：理事
11. 社会福祉法人横浜 YMCA 福社会：評議員

【その他委員会等】

1. 教務委員会の部長として、これまでの沿革を尊重しつつ、より豊かな「教育—学習」環境を整備する。2014 年度導入した 1.2 年生の共同授業(保育実習・教育実習)の有機的展開をさらに工夫し、「2 年生が保育学の先輩として成長する」ことを促進し、1 年生の学習意欲や動機を高める場の保証を他の講義・授業においても模索する。
また、開講授業全体を通じて、演習科目に限らず、講義における「アクティブラーニング」の可能性を求め、学生の豊かで創造的な学びを促進する提案を各授業担当者にしていく。2019 年度は、アクティブラーニングの実施アンケートを作成し、実施率、実施内容を調査分析し、学びの活性化に努めていく。
2. 2020 年度は新課程完成年度であるため、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを再確認し、修正を加えた後に、新たなカリキュラムマップ（カリキュラムツリー）を作成し、学生の学びの連続性を担保し、可視化に努める。
3. 上記の取り組みに連続して、学修成果の可視化を目指して ICT の導入（ICT を利用した往還型の学習）を図り、下記のような連形体制を構築する。
4. 教務委員会の下部委員会として、キャリアデザイン委員会・ポートフォリオ WG・専攻科介護福祉専攻委員会を有機的に統括し、特に科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」と「保育実習 各科目」、そして子育て支援での取り組みが学生の実践的な職業教育として、系統的に繋がりをもったものとして位置付くようカリキュラムの関連付けを強化していく。またラーニングセンターとの連携においては組織的有机的運営に努め、これらの委員会が相互に連携を図りながら学生の学びを支援していくことと同時に、離学者改善検討委員会においては、学生部との連携を強化しつつ、学習以外の支援の可能性を探る。
5. キャリアデザインセンター（CDC）の有効活用とプログラム、及び地域貢献(連携)の新たな可能性を探る。これまで地域の親子を中心に貢献を図ってきたが、新たに「高齢者」を視点においた「地域に根差した」キャンパス構想を提案していく。
6. キリスト教学校として、宗教部と連携を強め、建学の精神（アドミッションポリシー）に根差した総合的・系統的学び、特にキリスト教精神の理解に基づく職業召命観の豊かな形成をめざし、入学前教育から導入し、入学後はキリスト教関連科目はもとより、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等の授業におけるカリキュラム内容を工夫することに努める。
7. 2018 年より「教職課程 WG」を設立し、「教職研究」と題した、研究誌を出版。2019 年も 3 月に発行し、第 3 号となる。これにより、各教員の専門分野における研究以外に、各開講科目の授業研究を促進することになり、研究と教育の有機的な展開が図られた。今後も本 WG は、教員相互の授業研究に役立てることを目的に、10 年先の再課程認定を見据えながら、本誌を作成しつつ、教員の研究業績・教育業績の積み上げを促進していく。また松浦自身の講義の

在り方の省察や学生の学びが今以上に活性化するための教授法研究として取り組んでいくつもりである。

8. 尚、高校時代に学習意欲や学習方法、学修習慣が確立されていない学生が増加しているため、本学での学びの入り口である「入学前教育」の在り方を再度工夫する必要がある。2018年度よりこれらを鑑み、座学のみではなく、表現系の（造形表現・音楽表現・リトミック・介護実習）の演習を12月期・1月期に導入しているのは、効果的である。座学では経験できない学ぶ楽しさを実感しているようでもあり、教務委員にとっては、学生の普段の姿を垣間見ることが可能となったため、入学後の学習準備（クラス編成等も含め）に具体的な工夫を企てることが可能となった。

2020年度は、2月期・3月期の入学前教育の在り方を模索していく。

櫻井 奈津子 教授

【研究課題】

1. 家庭養護推進の課題

「里親」「小規模住居型児童養育事業」の養育に対する児童相談所・児童福祉施設・里親支援機関での支援活動に協力し、里親支援に携わるワーカーの課題を探る。

里親支援活動への協力・里親会との交流を通して、里親のニーズを探る。

2. 社会的養護の下で育つ子どもへの自立支援および社会的養護に携わる支援者のスキルアップを図る。NPO神奈川フォスターケアサポートプロジェクトによる里子の自立支援事業への参加・協力を通し、里親・ファミリーホーム委託児童等との関わりをもちながら、社会的養護の下で育つ子どもたちへの自立支援のあり方、具体的な実践について研究する。

相模原市児童相談所一時保護所職員へのSV活動を通し、要保護児童養育に携わる職員のスキルアップに協力するとともに、支援者としての課題を探る。

【教育課題】

1. 担当科目（子ども家庭福祉・社会的養護の原理・社会的養護の内容）の内容充実。全体として、具体的に理解しやすい教材（パワーポイント、ビデオ、資料等）の活用とタイムリーな話題提供により、子どもを取り巻く社会的環境や家族の問題についての理解を促してゆく。

「子ども家庭福祉」では、子どもやその家族に対する理解と、子どもの権利擁護の視点からの、子ども家庭福祉サービスのあり方について学びを深め、「支援者」としての望ましい子ども観を確立していけるよう、学生に働きかけてゆく。

「社会的養護の原理」では、「子どもが安心して安全な家庭生活を営む権利」を保障するための社会的養護の一環として、入所型の児童福祉施設が果たす役割を理解すると共に、相模原市内在住の里親の協力を得て、要保護児童の養育にあたる現場の声を伝えていく。

「社会的養護の内容」では、「社会的養護の原理」で学んだ基礎的な知識を活かし、保育実習Ⅰ（施設）への準備も含めて施設保育士の役割への理解を促していく。グループディスカッション・プレゼンテーション等の演習課題への取り組みを通し、学生が主体的に授業参加できる環境を整えていく。

実習（保育実習Ⅰ・保育実習Ⅱ・教育実習）とその指導科目については、実習体験を通して、保育者としての基本的な態度、姿勢を身につけ、現場における保育者の役割・責任を効果的に学べるよう、実践的な授業を展開する支援につなげてゆく。

2. 教科書等教材作成

子ども家庭福祉・社会的養護分野において、簡潔でわかりやすい教材作成を行う。

3. 共同研究「学生の進路選択と実習体験の関連性に関する調査研究」（2019年度申請）

前年度に実施した施設に就職した卒業生を対象とした郵送による質問紙調査、就職先への訪問調査、在学生（2年生）への調査結果を集計し、学生の進路決定プロセスに与えた影響を探り、学生の実習体験を初めとする本学の学びと進路選択との関連性、あるいは他の要因の有無について、実態を把握する。調査結果として得られた知見を、今後の学生支援活動・実習先との協力関係の構築に活用していく。

【社会的活動】

1. 児童養護施設・神奈川県内里親会等との連携により、里親及び里親支援に携わる職員への研修活動に協力する。

（特定非営利活動法人東京養育家庭の会 東京都委託事業令和2年度里親認定前研修講師他、里親及び里親支援専門相談員等を対象とした研修活動 等）

2. NPO法人神奈川フォスターケアサポートプロジェクトが行う里親研修活動・高校生の里子を対象とした自立支援活動に協力する。

3. 相模原市における子ども福祉活動・子どもの権利擁護への協力（社会保障審議会児童福祉専門分科会・児童部会・虐待検証委員会等の委員会活動、相模原市子どもの権利条例に基づく子どもの権利救済委員活動、相模原市児童相談所一時保護所研修講師等）

4. 横浜市における子ども家庭福祉活動への協力（横浜市児童福祉審議会委員）

5. 第三者委員活動

社会福祉法人あすはの会

社会福祉法人恩賜財団神奈川同胞援護会グリーンヒル相模原

【学会参加予定】

1. 日本子ども家庭福祉学会（東洋大学）
2. 日本子ども虐待防止学会（石川県）

鈴木 敏彦 教授

【研究課題】

1. 福祉サービス利用者（子ども、障害者、高齢者等）の権利擁護とソーシャルワークに関する研究（虐待防止、意思決定支援、差別解消、合理的配慮 等）
2. 障害児・者相談支援（障害ケアマネジメント、障害ソーシャルワーク、地域社会の形成 等）に関する研究
3. 戦前期「経済的保護」に関する史的研究（不良住宅地区改良法を中心に）

【教育課題】

1. 「共生」「人権（子どもの権利）」を基軸とし、「SDGs（Sustainable Development Goals）」に対応する社会福祉教育のあり方について
2. 児童福祉専門職（保育士等）養成課程における社会福祉・ソーシャルワーク教育のあり方について
3. 「保育ソーシャルワーク」のあり方について
4. 社会福祉教育における高大連携のあり方について

5. 障害のある学生に対する児童福祉専門職（保育士等）養成教育のあり方について

【学会参加予定】

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、社会事業史学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本グループホーム学会、障害学会、社会保障法学会、大学教育学会、日本社会福祉教育学会、東洋大学社会福祉学会、淑徳大学社会福祉学会、成年後見法学会、日本高齢者虐待防止学会、日本障害者虐待防止学会 ほか

井 狩 芳 子 教授

【研究課題】

1. 「乳幼児の“運動あそび・生活リズム・基本的生活習慣”の獲得プロセスに関する研究」と、その視点を踏まえた学生支援の在り方の模索（継続）。
2. 現代生活に対応した、乳幼児（保護者含）の健康保障／運動あそびの普及・検証（理論と実際）
 - ＊親子様の協力を得ながら研究を進める
 - ＊文部科学省が提示した「幼児期運動指針」に基づいた啓蒙活動
 - ＊協力団体（予定）：冒険遊び場・保育所・幼稚園等
3. 幼少年体育指導士会の養成プログラムの実証・検証

【教育課題】

1. 保育内容「健康」：
 - ア、2018年度より1年生全員が前期科目となった点を鑑み、引き続き学生の興味喚起のためトピックスを多く提示し、学びの導入として自らの健康に関する意識喚起を促し学生自身の気付きの開発に努める
 - イ、到達目標をスリム化し、学んでほしい内容と学生が理解出来る内容の調整をしながら資料等の工夫をする
 - ウ、各回授業開始時と終了時のキーワード確認・記入式のレジメの配布等により学生の知識の定着をはかる
 - エ、ポートフォリオを活用した学びの連動をはかる
 - オ、保育者の視点に気付く機会とする
2. 保育内容の総合的指導法「健康」：本科目は、保育内容『健康』（前期担当科目）について、現場の指導法を念頭に設置された新科目であり、「ヒトが育ち、生きていくために、なぜ乳幼児期の“健康／身体活動（あそび）”が必要不可欠なのか」について、実践や指導法を通して学びの定着をはかる事である
 - ア、「保育現場における健康／あそびの援助」を実際におこない、「保育者自らが、いつでも・どこでも、気軽に健康／あそびの指導が出来る力の習得」を目指し、「実践と理論に強い保育者」を育てる
 - イ、授業構成の前半は、前期の学びを指導法に結びつけて深掘りし、後半には、あそびや食育の年間プログラム作成もおこなう。また、簡単なあそび課題を多数体験し、それを達成することで自己肯定観獲得を促す
 - ウ、幼児期運動指針（文部科学省）の内容も取り入れて、“学生自身が「からだでわかる」”授業の展開に努める
 - エ、今年度の経験を活かし余裕ある授業展開に努める

3. 実習指導／グループ担任：

- ア、日常生活や現場実習に対し不安感や困難を抱く学生が増加する中、引き続き学生の気持ちを汲み取り、学生の小さな気付きを積極的に評価する
- イ、自身の重要課題として、現代社会の情勢把握とともに若い世代の文化にも興味をもつ
- ウ、自身のストレスのコントロール術を習得し、ひいては、その術を学生と共有する
- エ、1年生終了頃には、概ね学生らしい自覚を持った日々の生活が出来るような支援に努める。そして、新1年生へのサポーターとして新2年生の力を充分に活用し、2年生の一層の力も育てながら、その力を1年生の成長の一助とする。実習の合同授業/グループミーティング/礼拝等を通し、和泉短大への帰属意識や大人になる心の準備へのサポートに努める
- * 尚、2019年度は授業受講のメンバーを「組」によって構成したが、その構成メンバーにより、格差が生じ退学者や欠席が多くみられる組もみられた。負の連鎖を抑える工夫も課題としたい

【社会的活動】

1. 「小児保健研究（日本小児保健学会発行雑誌）」投稿論文査読委員
2. 「日本体育学会」平成27・28／29・30年度代議員（専門領域選出）
* 専門領域は、「発育発達」領域
3. 「神奈川県相模原市青少年問題協議会」会長
4. 「神奈川県相模原市図書館協議会」委員
5. 「神奈川県開成町子ども・子育て会議」委員
6. 「子どものからだと心連絡会議」全国委員／会計監査
7. 一般社団法人 幼少年体育指導士会 理事
8. 「社会福祉法人 歩育の会」理事
9. 「NPO法人 子どもの居場所ネットワーク」理事
10. 「NPO法人 セルフケア総合研究所」理事

【学会参加予定】

1. 日本保育学会（5月）
2. 日本保育保健学会（5月）
3. 日本小児保健学会（6月）
4. 日本体育学会（9月）
5. 子どものからだと心・全国研究会議（12月）
6. 日本発育発達学会（3月）

大 下 聖 治 教授

【研究課題】

1. 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム(継続)
2. 運動技術の方法的運動系列に関する検討(継続)
3. 指導技術(コーチング)の習得に関する研究(継続)
4. 身体運動・表現遊びと安全対策に関する研究(継続)

【教育課題】

1. 乳幼児期の発達に効果的な運動・遊び・環境構築について、学生個々が理解を深め、基本的

- な援助技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
2. 保育・福祉の現場で必要となる体力的要素の養成とサポート
 3. 子どもの「身体運動遊び」及び「身体表現遊び」に積極的に関わり、環境の構築と工夫ができる保育者の育成
 4. 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成
 5. 学生生活の充実と課外活動支援、および進路支援

【学会参加予定】

1. 日本体育学会
2. 日本体力医学会
3. 日本保育学会

【社会的活動】

1. 座間市子ども・子育て会議 会長
子ども・子育て支援法に規定する子ども・子育て支援事業計画の策定等に関し、市長の諮問に応じて調査審議を行う。
2. NPO 法人「世界健康・スポーツ振興協会」理事
介護予防の運動処方とシステム開発に関する研究・事業推進
3. 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会苦情解決第三者委員
苦情に対する社会性や客観性を持った「第三者委員」として、公正・中立で一定のルールに沿った苦情解決ができるように調整。

横 川 剛 毅 教授

【研究課題】

1. インクルーシブなキリスト教会についての研究

【教育課題】

1. より深い配慮が必要な子どもに寄り添うことができる保育者・支援者の養成
2. 障がいのある人への支援についての関心を喚起し、障がい関連福祉施設への就職者を増加させる。

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本キリスト教社会福祉学会

西 田 恵一郎 教授・チャプレン

【研究課題】

1. 『人間の学としての神学を求めて』相互愛 ―奥村一郎神父の後を追いつつ―。学生はいかにして保育・教育・福祉に於ける使命感を覚えるか。
2. 「無牧教会あるいは小規模教会における教会成長」
教会の集会出席者数が教会成長という言葉の代名詞になっていないか。教会の成長とは一体何なのか。
3. 本学での2年間で、学生におけるキリスト教に対する感じ方がどのように変化したか。2018年度、1年前期の「キリスト教概論」でのアンケートを基にした実践報告が2019年度の「キ

リスト教教育学会」誌に掲載された。この統計は前期の第1回目の授業と最終回の授業での比較であった。2019年度、1年後期の「キリスト教保育」においても同様の統計を取った。この1年（前期と後期）という連続性における「変化」の検証を試みたい。また、更には、卒業を控えた2年生での検証をも実施したいと願う

4. 「キリスト教概論」および「キリスト教保育」で教会出席を促し、近隣教会との連携を図っているが、更に連絡を継続しながら、伝道と教育の働きにおけるパートナーシップを構築したい。教会と和泉短期大学の懇談会の開催の可能性を近隣にある一つの教会から打診された。この提案を前向きに検討したい。
5. 2017年度・2018年度の「相模原市総合計画審議会」の委員を経験し、相模原市の抱える課題を総合的な視野で知ることができた。多くの課題の中から特に教育と保育に対する姿勢や文化に対する意識の低さに一つの課題を見たように思う。

2019年11月、「さがまちコンソーシアム 市民大学」で「人生100年時代における死生学」について3回にわたって講演を行った。募集人員20名のところを41名の受講者を得て、講座を実施した。講演の中で、キリスト教的人間観・人生観・死生観などを紹介した。このような形でキリスト教教育・キリスト教文化の紹介を地域に密着しながら行えればと思う。

【教育課題】

1. チャペルアワーの充実を図る。スクールモットーである「愛と奉仕」に対する理解を一層深める。TPOをわきまえ、場や時に相応しい態度をチャペルへの出席を通して身に付ける。
2. 「キリスト教概論」が自分と向き合う時となり、自己を発見しながら神との出会いに繋がるように。更に保育・教育・福祉の仕事は神からの委託であると気づくことができるように。
3. 「英語コミュニケーションⅡ」を通して、英語による日常のコミュニケーション能力 — 特に保育の現場における — を身に付けると同時に、英語を学ぶ際に必然的に伴ってくるキリスト教の背景や影響を知る。

英語に対する苦手意識は高校までの否定的経験に基づくものであるように思う。「なるほど！」という経験に到達させたい。2020年も2019年に引き続き、ネイティブ・スピーカーによる講演を行う予定である。こういう機会をさらに増やしたい。

4. 宗教活動(ICF、聖歌隊、ハンドベルクワイア)を含むすべての活動を通して愛し愛される「人」となり、愛から生まれた奉仕を実践できるような活動とする。
和泉保育園との連携を図り、学生たちの奉仕の機会、同時に幼児たちの新しい文化の経験の機会を提供したい。

【学会参加予定】

1. “Association of Clinical Pastoral Education” (アメリカ臨床牧会教育教会)
2. “The National Christian Counseling Association” (全米キリスト教カウンセリング協会)
3. “National Association of College and University Chaplains” (全米大学チャプレン協会)
4. 日本キリスト教教育学会
5. 日本スピリチュアルケア学会

【社会的活動】

1. 日本基督教団相模原教会協力牧師
2. 日本基督教団神奈川地区教務教師
3. クリスチャン・ミSSIONナリー・アライアンス ジャパン・ミSSION翻訳、通訳；同ミッ

ション川口キリスト教会特別礼拝講師。

4. 桜美林中学高等学校礼拝説教担当

5. クリスマスツリー点火祭「はっぴいクリスマスコンサート」「和泉スプリング・コンサート」を通しての地域との触れ合い。

【その他委員会等】

1. 学生部健康管理センター学生相談室カウンセラーとして相談業務の充実を図る。

友人関係での葛藤、家族問題、経済的困難、自分の保育者としての適性に対する疑問など様々な問題を学生たちは抱えている。これらの問題が、退学へと繋がる場合が少なくない。離学者対策にも関わるこの業務の充実を図りたい。

2. チャプレンとして礼拝をより充実させ、「建学の精神」を堅持し、さらにはその一層の浸透を図る。

キリスト教学校教育同盟などの会合への出席を通して、他のキリスト教学校との連携を図る。宗教部長として宗教行事の企画運営。

「キリスト教概論」「英語コミュニケーションⅡ」担当者としてキリスト教教育と国際教育の推進。

山 本 美貴子 准教授

【研究課題】

1. 2020 年度「保育内容 表現」「保育の総合指導法 音楽表現」の授業内容と、「子どもと音楽」等各科目との連携方法など「授業内容研究」を継続し、養成校での保育者の音楽性の育成について、引き続き検討したい。
2. 学生への調査研究（2019 年度学会発表・紀要掲載）を基に、実習事前学習としてのピアノ特別講座の内容や教育効果、実習時のピアノ以外の音楽表現活動と事前学習についてなどの検討を重ね、保育における保育者の音楽実践や、養成校での保育者の音楽性の育成について新しい方向性を提言したい。
3. 自発的な遊びの中に見られる子どものリズムカルな言葉・音・動きによるやりとりと遊びの展開に関する研究から、保育者自身の感性・表現力・レパートリーや援助技術の向上を目指す研修方法・内容を探りたい。

【教育課題】

1. 「保育内容 表現」「保育の指導法 音楽表現」の授業内容と方法について

新カリキュラムにより 2019 年度からスタートした二つの表現系の担当授業について、あらためて子どもの感性や表現・豊かな音楽性を理解し、生活や遊びの中で、また保育者や友達との関りを通して育む保育方法を実践する専門性を育てる授業内容を探る。

音楽教育全体の課題である「音楽を創る」をテーマに、学生が主体的に学ぶ創造的な表現活動（音楽や表現を創る活動）を主軸にして、個々の学生の知識と個性を生かした協働的、創造的、想像的な授業実践を目指す。ICT、ポートフォリオなどの積極的活用により、引き続き学生の学習段階・学修成果の可視化を工夫したい。

2. 保育内容「表現」の授業内容と方法について

毎年度の省察・当学年の学生の状況に基づいて、適時、理論学習と創作発表課題の最適な配分を模索したい。さらに教材研究・授業形態などの細かい工夫を積み重ね、子どもの表現行

動・保育内容に即した総合的な表現について学習・体験する充実した授業実践の手応えを得ている。2020年度もさらに新しく課題設定・指導方法の改善を試みる。

3. 「聖歌隊」活動内容と選曲・指導方法について

2019年度は2年生9名・1年生12名のメンバーで活動した(2020年1月現在)。

昨年に引き続き2年生メンバーを中心に活動に積極的に参加、特にクリスマス関連行事への意欲が高く、大きな手応えを得られた。昨年協議により改善された水曜2限キャンパスライフアワーの各種委員会・学生向け会合と聖歌隊定期練習との調整により、前半を各種活動、後半から昼休みを聖歌隊活動に明確に分担することで毎週継続して練習に参加できること、またGoogleClassroomの活用により、実習や長期休暇後のスケジュール確認、練習内容や活動状況の周知などを円滑に直接的に行うことが可能になったことが、学生の意欲向上を支えたと考える。

<次年度の取り組み>

- ・2019年度は4月一年生隊員の勧誘時期の取り組みが効果を発揮、社会人学生・男子学生4名の入会により活気ある年度となった。一方で、宗教センターが手狭で全員が快適に過ごすことが困難なことが課題となった。メンバーが増えた場合の活動形態の工夫、1年生2年生の交流の充実、新担当者への引継ぎも視野に、聖歌隊の活動内容や位置づけに新しい試みを検討する。
- ・毎年、卒業入学時期に新しい曲を取り入れたいと考えるが、いずみ祭の為の活動休止を経て、クリスマス終了後すぐ冬期休暇、1月新学期後1回の練習日で1年生が2連続実習期間となる為、練習は3日間のみスケジュールとなり、新曲を自信をもって歌うレベルに仕上げるのが難しい。幸い、毎年好きな曲として学生に大変好評なので、歌詞を味わい歌声に心を込める余裕をもって毎年耳になじんだ曲に取り組み賛美することとする。

4. グループ運営の充実と個別学生指導について

(2019年度2年生)

2L生の多くが忙しい学校生活の中でも様々な課外活動に参加し、さらに複数名の学生が優秀な成績を修めたことを喜びをもって見守った。

特に最後の実習後の進路相談支援について、相談可能な日時を予め明示しメールと電話を公開して連絡しやすい環境を整えたこと、学生支援ユニットとの連携を確かにするにより、実習サポートセンター業務によるグループ指導時間の減少をカバーするように努めたことにより、一定の効果を得られた。

実習・資格取得を志した学生は全員が資格を取得し、学生支援ユニットの多大な支援により、それぞれが希望する保育実践現場での進路を決定することができた。一方で、ルール順守・社会人としての責任ある行動について指導が難しい学生について、多方面と協力し取り組みを継続する必要があると感じている。また卒業資格のみを目指した学生1名について、CDC・Will・学生支援ユニットとの協力体制による支援が功を奏し、彼女なりの充実した学生生活を過ごせたことを今後の学生支援の選択肢として重視したい。

(2020年度1年生・2年生)

引き続きDグループ保育実習指導Ⅰ・Ⅱについて、グループアドバイザー前島麻衣助手と協力して学生指導を支援、授業評価者の責務を果たしたい。

【学会参加予定】

1. 日本乳幼児教育学会
2. 日本音楽教育学会

矢 野 由佳子 准教授

【研究課題】

1. 新任保育者の情緒体験とキャリア意識に関する調査研究
2. 乳幼児の発達と心理臨床の実践

【教育課題】

1. 子どもや保護者の心に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接することのできる保育者の育成
2. 心身の健康管理に留意できる保育者の育成

【学会参加予定】

日本保育学会 日本心理臨床学会 他

松 山 洋 平 准教授

【研究課題】

1. 保育現場と連携して行う新たな実習教育・保育者養成のあり方
2. 保育の質向上を支える研修と保育者の変容の過程に関する研究
3. 保育者の子どもを理解することの深化についての研究

【教育課題】

1. 担当科目「保育方法」における評価の整合性をもたせた非常勤講師との授業間連携
2. 担当科目「保育内容・環境（指導法）」における、さらなるALの開発と内容の充実
3. 実習先との連携による実習教育さらなる充実を目指した取り組み
4. サークル、自主ゼミ等、授業外学習を行う学生を支える取り組み

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会

【社会的活動】

1. Will とともに語ろう（和泉短期大学学生・卒業生研修会）
2. 墨田区子ども子育て会議委員
3. 荒川区保育園指定管理者候補者審査委員会委員
4. 荒川区子育て支援部指定管理者実績評価委員会委員
5. ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部評価委員
6. 川崎市認可保育所（株）ぶどうの実系列園 要望等解決審査委員（第三者委員）
7. 幼稚園教諭免許状更新講習講師（神奈川県幼稚園協会）
8. キャリアアップ研修講師（相模原市・横浜市・認定こども園連絡協議会）
9. 預かり保育担当者研修講師（相模原市幼稚園認定こども園協会・横浜市幼稚園協会）
10. 子どもと保育総合研究所所員（研究大会・セミナーなどの企画・運営・講師）
11. 大田区公立保育園公開保育研修講師

12. 鉄道弘済会研修会講師

平 沼 晶 子 准教授

【研究課題】

1. 保育施設で絵本の読み聞かせ活動を行うシニアボランティアの生涯発達
2. 「保育者が行う子育て支援」のための心理コンサルテーション

【教育課題】

1. 新設科目「子ども理解と方法」の授業内容および教材を工夫して学生に分かりやすく教授する。同時に、他の担当科目「保育内容 人間関係」「家庭支援論」との重なりや連続性を踏まえて授業を展開し、学生の興味を促す。
2. 研究・臨床活動・海外視察を通して得た知見を授業に還元し、学生の実践的な学びにつなげる。

【学会参加予定】

1. 日本心理臨床学会
2. 日本子育て学会
3. 日本発達心理学会

【社会的活動】

1. 生涯発達研究教育センター研究員
2. 保育士を対象とした研修会講師
3. 保育所におけるコンサルテーション
4. 子育て支援に関する講演会講師

中 野 陽 子 准教授

【研究課題】

1. 知的障害者の支援をするソーシャルワーカーの専門性に関する研究
2. 障害者の権利擁護に関する研究

【教育課題】

1. 人権を護り、多様性を尊重し、共生社会の実現ができる保育者の養成
2. 特別な配慮が必要な子どもの支援ができる保育者の養成
3. 障害者施設における支援の魅力を伝え、就職先の選択肢の一つになるようにしていく
4. 社会福祉士や特別支援学校教諭免許状取得に向けた編入学を推奨していく

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 社会福祉教育セミナー
3. 日本発達障害学会
4. 全国保育士養成セミナー

【社会的活動】

1. 相模原市民オンブズマン
2. 神奈川県立さがみ緑風園第三者委員
3. 社会福祉法人ウィズ町田評議員/虐待防止委員
4. 社会福祉法人つばみの家監事

5. 相模原市差別解消支援地域協議会委員
6. 相模原市障害者市世知指定管理者選考委員
7. 横浜市つたのは学園及び中山みどり園指定管理者選考委員

久 保 小枝子 准教授

【研究課題】

1. イタリアのレッジョ・エミリア幼児教育に関する研究
2. 台湾の育児情勢、保育の動向、課題を研究
3. 乳幼児の発達に絵本やおもちゃが与える影響を継続して研究
4. 子育てひろば「はっぴい」「すまいいい」の地域支援に主体的に参加する学生の保育の専門性の向上についての研究
5. 青年期における宗教心の芽生えとその育成を調査・研究

【教育課題】

1. 学生が保育職への意識を高め、主体的に学ぶための教育方法を探る。
2. 保育内容「言葉」、保育内容の総合的指導法「言葉」、「キリスト教保育」「保育・教職実践演習」の講義や演習を充実させるために、学生が保育現場の具体的な事例から学べるように工夫する。保育現場での資料集め、見学、保育者にインタビューを中心に行い、理論と実践の統合を目指す講義、演習を行えるように努める。
3. 学生生活の充実と保育技術習得の支援に努める。
4. 地域の子育て支援プログラム「はっぴい」「すまいいい」に参加する学生に実践的な学びの場を提供する。学生が計画案作成、実践及びその振り返りを通して、主体的に学ぶ機会を支援する。
5. 入学前教育のプログラムの企画・運営。
6. 1 年次「幼稚園保育体験」の企画・運営。

【社会的活動】

1. キリスト教保育連盟『キリスト教保育』コメントの会委員
2. キリスト教保育連盟『キリスト教保育』「心にとめて」「実践を読んで」執筆
3. 和泉短期大学子育て支援プログラム（はっぴい・すまいいい）リーダー企画・運営
4. 横浜YMCA 県内 14 園ある保育園のスーパーバイザー
5. 横浜市立保育所の民間移管にかかる法人選考委員会委員
6. 相模原市幼稚園・認定こども園協会教員免許状更新講習講師
7. 相模原市キャリアアップ研修講師
8. キリスト教保育連盟アジアキリスト教保育者協議会委員

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. アジアキリスト教保育者協議会（台湾）
5. 子どものための芸術と遊びフォーラム
6. OMEP（世界幼児教育・保育機構）日本委員会

八 代 陽 子 専任講師

【研究課題】

1. 乳児理解

①保育者の乳児理解の視点の一考察～保育ドキュメンテーションに着目して～

保育ドキュメンテーションの切り取りに場面に着目し、保育者の乳児理解の視点について探る。

②保育者の乳児理解の視点の一考察～一日の生活場面に着目して～

保育ドキュメンテーション・観察・インタビューを通して、乳児の一日の生活場面で、保育者が着目する視点から、保育者の乳児理解について探る。

③乳児とモノのかかわりの一考察～乳児にとってのモノの意味に着目して～

これらのことを明らかにすることにより、乳児保育の質の向上及び保育者養成校教育授業の「乳児保育」のより良い在り方の示唆を得る。

2. ミドルリーダーの後輩指導に関する研究

インタビュー調査を通して、ミドルリーダーにとっての後輩指導の意味について探る。

このことを明らかにすることにより、ミドルリーダーの育成及び、保育の質の向上の示唆を得る。

【教育課題】

1. 子ども理解を深める授業の検討 その3－「子ども理解と援助」授業における「保育カンファレンス」に着目して－

授業「子ども理解と援助」の中の「保育カンファレンス」に着目して、アンケート・授業レポート等から、「子ども理解」を深める授業実践の評価、改善、計画を行う。

2. 子ども理解を深める授業の検討 その4－乳児保育授業に着目して－

授業「乳児保育」の中の「遊び」「生活」に着目して、アンケート・授業レポート等から、「子ども理解」を深める授業実践の評価、改善、計画を行う。

【学会参加予定】

1. 日本医療保育学会
2. 日本保育学会
3. 日本乳幼児教育学会
4. 日本保育園保育保健協議会
5. 日本保育者養成教育学会

星 早 織 助教

【研究課題】

1. 乳児保育の質の向上に関する研究

2. 保育者養成における学生の成長の変容プロセスに関する研究

3. 子育て広場「はっぴい」「すまいいい」における地域子育て支援の充実に関する研究

【教育課題】

1. 担当教科において、教材及び保育現場での事例を通して学生が自ら考え、また他者と協力しながら知見を広げられるような演習授業を設定する。

2. 学生自身が保育を客観的に捉え、評価・反省ができる保育者となれるよう記録する力を身に

つけられる授業を構成する。

3. グループ担任として、学生が入学から卒業までの見通しを持ち、充実した学生生活が送れるようグループ運営に努める。
4. 子育て支援プログラム「はっぴい」「すまいりい」に参加する学生に実践的な学びの場を提供し、学生主体の企画の支援を行う。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 子どもと保育実践研究会

渡 部 美 佳 助教

【研究課題】

1. 保育者養成校で学ぶ学生を対象とした自然物に着目した教材開発
2. 保育者の虫に対する意識についての研究

【教育課題】

1. 担当科目『保育内容 環境』『保育内容の総合的指導法「環境」』において、学生が理解しやすい授業を展開することを目指す。
2. 実習に関するサポートを行う中で、学生一人ひとりに合った支援ができるよう努める。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会

前 島 麻 衣 助手

【研究課題】

1. 保育現場での音・音楽のあり方について
「子どもが主体的に過ごす生活の中で音と楽しむ事の意義」(修士論文)から、更に、保育現場の音のあり方について研究を深めていく
2. 幼児の音楽表現を支える保育者について
学生の授業と実習での経験から、幼児の音楽表現を支える保育者に必要な事から、学生に必要な学びを考えていく
3. 養成校で学ぶ学生の音楽について
「学生の音楽歴や音楽に関する調査研究」

【教育課題】

1. 「子どもと音楽」の授業内容と方法について
2. 学生の実習準備の支援方法について
3. 聖歌隊の取り組みについて

【学会参加予定】

1. 日本保育学会 (5 月) ポスター発表予定
2. 音楽教育学会 (10 月)

専攻科介護福祉専攻

佐 藤 美 紀 准教授

【研究課題】

1. 実習における学生の認知症高齢者への理解度について
2. 移動・移乗技術の施設現場での現状について

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉学会
2. 認知症ケア学会

佐久間 志保子 特任教授

【研究課題】

1. 介護人材に関する取り組み
2. 保育所における感染症対策

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉教育学会
2. 日本認知症ケア学会

出 村 由利子 特任准教授

【研究課題】

緩和ケア

1. 音楽を用いたスピリチュアルケアの実践
2. 絵本を用いたグリーフケア

【教育課題】

1. 考えるより感じることを大切にする
2. 苦しむ人から逃げずにそばにいるために沈黙を大切にする
3. 自分の内側に対する気づきをえるために身体感覚を大切にする

【社会的活動】

1. 子どもホスピス研修会及び人材育成
2. ホスピスや施設などにおける緩和ケアハープの奉仕

【学会参加予定】

1. 日本スピリチュアルケア学会

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 松浦 浩樹）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とする。左記の各事項のうち、2020年度は「学校法人和泉短期大学第2次中期計画」を踏まえ、下記の点を重点的に取り組むこととする。本計画は、関係する他の委員会等との十分な調整等を行い実施する。

（1）教育体制の充実

- ①3つのポリシーの明確化と共に「5つのコンピテンシー（ディプロマサプリメント）」をルーブリックの中で一本化。

上記の再整備とアセスメントプラン、カリキュラムツリーを新たに設定することを通じて、本学における学びの道筋と可視化を具現化し、学生が自覚的・主体的に学習に取り組めるような態勢を整える。

②学修環境の整備と組織的運営の構造整備・改革

学習支援環境の充実を図るため、アセスメントテストを導入し、学生の学修環境の実態を把握し、その結果を授業担当者別かつアドバイザー別に結果を開示し、授業運営の手立て【往還型の授業への取り組み】とするよう促進する。

また、離学希望者の学修生活での躓きの要因を探り、具体的な手立てを講じる。

③教育内容の体系化の充実

（上記ルーブリックに沿ったシラバス作成要綱の更新と運用）

④新たな教育方法の導入に向けた継続的な取り組み

- ・アクティブラーニング（能動的学習・課題解決型学習（PBL））等
- ・授業担当者に対する往還型学習の促進 Google Class への転換と活用
アンケート調査の開始(2019年度)と実績分析
- ・ラーニングセンターwillの運営管理
- ・非常勤講師のオフィスアワーの明確化

（オフィスアワーの明確化と非常勤講師の学生対応の再評価）

⑤実習教育を中心としたサービスラーニングのあり方の検討

（実習教育との協働を図るため、実習サポート委員会と連携する）

⑥ハード面における環境整備の提案

- ・教室教育用機器備品についての整備の充実、及び学生ホールや食堂の学修室（カフェ）化
- ・IT教育環境の整備（学生ホール・及びIT関連授業の教室環境整備）
- ・上記①～⑥を踏まえ、学習効果の可視化を目的に、学生の学修、教員の授業効果のICT化を実現する。

⑦障がい、その他の特別な配慮を要する学生への支援のあり方の検討

（「障がい学生修学支援委員会」との協働）

- ・2019年度生(2020年度2年生)対象者 数名。
- ・2020年度生の調査 2020年2月12日

2020 年度生に関しては、2019 年度第 3 回入学前教育（2 月）時点で 80 名調査書未提出
→必要に応じてクラス編成時に配慮

（2020 年 2 月時点では、男子 1 名：極度の偏頭痛）

⑧CDC、LC “Will”、及び PC 教室（212）の各目的別支援員の配属と職務内容の確認

（特に Google Class への転換とスムーズな運営のための人材確保）

⑨「職業訓練委託生」のクラス配置と学習支援

・学習支援の実態について、具体的に省察したことがらについて、全教員に周知を図る。

⑩「社会人学生」のクラス配置と学習支援

・学習支援の実態について、具体的に省察したことがらについて、全教員に周知を図る。

⑪研究活動の充実

教員の学務への対応が煩雑になり、研究活動の時間確保が困難になりつつある。働き方改革に伴い、研究のための一定の期間と時間が確保されるよう、学事を工夫する。

研究紀要・教職研究への投稿、及び学会参加・発表、共同研究等へ促進を図ると共に、研究調査倫理（私的財産、知的財産、個人情報保護）の徹底。

⑫全教員打ち合わせ会の充実

2020 年度の本学の教育改革へのコンセンサスを図るために、従前より行ってきた本会議の運営をさらに充実させるために、2021 年度の打ち合わせ会を 2021 年 3 月中に行う。

⑬市内高校校長との教育研究会

学内の教育体制は高く評価を受けてはいるが、高校生や入試担当教員の間ではそれが評価を受けにくい状況にあるため、アドミッションオフィスと協働しながら、上記①～⑥の共有や入学前教育の質を高めるために協議を行うとともに、「保育職」への社会的理解を高めていくための会となるようにする。

⑭ティーチング・ポートフォリオの開発

アクティブ・ラーニングの実際、課題内容の共有・調整。

(2) 学びの組織的支援

①ICT 化への取り組みと共にポートフォリオの更新と取り組み内容・方法の工夫

（「ポートフォリオ委員会」との協働）

②保育者養成（幼稚園教諭・保育士共に）の新課程に対応するカリキュラムツリーを 3 年編成（専攻科含む）で再構築する。

同時に、旧課程で単位を取得できない学生への教育支援の在り方を再度明確化する。

③中途退学（離学者）防止に向けた取組みの充実（「離学者検討委員会」との協働）

④キャリアデザインセンター・ラーニングセンター支援者を中心とする「保育者を目指す学びへの支援」に関するカリキュラムの検討（キャリアデザインⅠⅡへの授業化。リメディアル教育を含む）。

（「キャリアデザイン委員会」との協働）

⑤入学前教育の内容更新と充実（方法・内容等の再検討）

⑥学生アンケートの実施による学生の意識、学修の状況等の情報収集と教育実践の向上に向けた反映

⑦学びの組織的支援充実のための構造整備（教務委員会下部組織の整備と確認）

⑧学習時間の保障を軸に、シラバス作成要項（方針）を綿密に作成し、講義・演習の組織的な運

用を目指す。

⑨初年次教育(大学におけるスタートカリキュラム)の在り方を模索する(下記 (4) -②⑥を含む)。

(3) 学修の評価

- ①アセスメントプラン策定に向けた検討
- ②学修ルーブリックに関する検討 (2020 年度:試験的運用 2021 年度:完成年度)
- ③自主的な学習の評価に関する検討 (ルーブリックポリシー<仮名>の検討)
- ④成績評価の厳格な運用の推進
- ⑤学修成果のフィードバックのあり方に関する検討

(4) 連携活動

- ①学校間連携の充実 (保育士養成施設協議会、日本社会福祉教育学校連盟、キリスト教保育連盟 等)
- ②高大連携プログラムの充実 (聴講生受け入れ、市内高校長との教育研究会開催 等)
- ③産官学連携のあり方の検討 (日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市高齢者施設協議会 等)
- ④地域連携のあり方の検討 (地域連携推進委員会と協働)
- ⑤専門職団体等との連携の充実 (キリスト教保育連盟、日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、神奈川県保育士会、神奈川県介護福祉士会 等との協働によるキャリアパス<キャリアアップ講習>の具体的構築 下記 (5) -①と関連)
- ⑥保証人との連携の充実 (保証人会の開催、保証人への成績通知 等、「学生委員会」との連携)
- ⑦保育実習指導者研修への参入 (全国保育士養成協議会、横浜市、相模原市保育課)

(5) 生涯教育

- ①リカレント教育の縮小と地域への講師貢献の促進 (リカレント教育のあり方に関する再検討、卒業生調査の実施、保育士・幼稚園教諭特例制度に係る講習会の開催、現職研修への講師派遣 等) IR 委員会、地域連携推進委員会と協働
- ②大学公開講座の充実 (相模原市との共催 等)

(6) キャリア教育の推進

- ①キャリア教育の推進 (キャリアデザインセンター、ポートフォリオ、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等、「学生委員会」「キャリアデザイン委員会」との協働)
- ②資格取得支援 (保育士、幼稚園教諭免許、おもちゃインストラクター、その他)
- ③「保育ふれ合い体験 (保育園)」・「福祉ふれ合い体験」のカリキュラム化と体験の充実化
「幼稚園保育体験」のカリキュラム化
- ④休日月曜授業日の「ホームカミング」としての積極的活用の検討

(7) FD 活動の充実

- ①自己点検・評価報告書の作成 (「自己点検・評価委員会」との協働)
- ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討
- ③学生による授業評価の活用方法の検討 (回数、時期、方法、結果の提示方法)

④教員懇談会・教職員懇談会の開催

⑤全教員参加のFD研修会開催（「ファカルティディベロップメント委員会」との協働）

⑥学生FD委員会活動への支援

(8) 教員の交流と研究活動の支援

①全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の充実

②教員の研究活動の推進

（研究費の活用、外部研究資金調達への支援 研究日及び研究期間の保障等）

③文部科学省等による外部資金獲得に向けた検討

(9) 情報公開・情報収集の推進

①自己点検・評価報告書の公表（「自己点検・評価委員会」との協働）

②教員情報の公表（公表方法・公表項目の検討 等）

③保育・幼児教育関係の動向に関する情報収集（「IR委員会」との協働）

④保育士養成課程／幼稚園教諭養成課程の動向に関する情報収集（「IR委員会」との協働）

(10) 教職課程ワーキンググループ（WG）の運営（2017年度10月～継続課題）

①教職課程再課程（幼稚園教諭）認定において記される新課程を、本学のカリキュラムポリシーに照合し、再構築した上で、カリキュラムツリーを更新。

②講義・演習の質の向上と教職課程の科目に準ずる研究業績の保存・蓄積を兼ね、論集『教職研究』を出版。主に担当科目の授業研究等に関する研究結果を掲載。

(11) 「授業時間の100分化」と「授業開講時期の短縮」への工夫を模索。

養成カリキュラムが過密になり、長期休暇が短くなっていることを鑑み、1回分の授業を10分延長すると共に、90×15回+テスト(1350分+テスト)⇒100×13回+50分(まとめ・テスト)に変換することで、開講期間を前期・後期で各1週間ずつ短縮でき、工夫の余地がある。

そのため、2021年度(2020年度、新カリキュラムの完成年度)実施に向けた方針や実施案の原案を2019年度内に作成し、FDや教授会等で協議を重ね、2020年度内に決定した後、2021年4月より実施を目指したい。

(12) ICT運営の実質的ワーキンググループをキャリアデザイン・ポートフォリオ・CDC・LCW運営WGに委託。

学生委員会（学生部長 山本 美貴子）

(1) 学生支援におけるグループアドバイザーとの連携強化を図る。

(2) 学生生活向上のための取り組みを学友会とともに進める。

(3) 進路支援センターの充実と就職率・就業定着率の向上を図る。

(4) 卒業生アンケート調査および卒業生の雇用に関する満足度調査の充実を図る。

(5) キャリアデザインⅠ（学生生活支援）・キャリアデザインⅡ（進路支援）の充実を図る。

- (6) 学資支援（奨学金制度）の充実を図る。
- (7) 学生の賞罰に関すること。
- (8) 学友会活動（いずみ祭、卒業・イベント委員会）及び学生F D委員会を支援する。
- (9) 学生の課外活動を支援する。
- (10) 健康管理センターを充実させる。
- (11) ステークホルダーとの連携強化を図る。

入試広報委員会（入試広報部長 鈴木 敏彦）

1. 広報関係

- ①学園報（IZUMI NEWS）の発行（4回 / 年）
- ②入学案内冊子の作成及び充実のための検討
- ③進学相談会等（高校教員向け、市内高校保育・高大接続授業研究プログラム、神奈川県私立短期大学協会主催相談会）、オープンキャンパス、ミニオープンキャンパス、ナイトミニオープンキャンパスの開催及び充実のための検討
- ④高等学校進路説明会（進学説明・模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑤公開講座（市民大学・さがまちカレッジ等）の開催及び充実のための検討
- ⑥公開授業（市内小学校・中学校・高校教員対象）の開催及び充実のための検討
- ⑦和泉プレカレッジ（高校2年生向け模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑧ホームページ及びSNS（ツイッター、ライン、フェイスブック、インスタグラム）によるニュース配信や充実のための検討
- ⑨教職員説明会の開催
- ⑩同窓会との交流
- ⑪その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- ①入試：総合型選抜、学校推薦型選抜（指定校推薦、公募推薦、専門高校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦）、社会人特別選抜、一般選抜）の公正かつ適正な実施
- ②入試戦略（各入試の内容・方法の充実等）の検討
- ③他大学の入試関係データ収集
- ④その他の入試関係業務の遂行

実習サポート委員会（実習サポートセンター長 松山 洋平）

1. 実習に関する業務

(1) 実習先施設の選定・連絡・調整

- ① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
- ② 実習指導連絡会の実施（保育実習・教育実習／年2回）
- ③ 「実習・実習指導 実施要項－実習指導のミニマムディマンド」作成と実習先への送付（年1回）

(2) 実習実施に関わる業務

- ① 保育実習Ⅰ（保育所・施設）実習先確保と1月期・2月期調整
- ② 上記①の実施期間の一本化への努力(1月期：保育所、2月期：施設)

- ③ 登録課題（希望実習先レポート）の受付と配属
- ④ 学生の諸手続の支援（希望実習先レポート、実習生個人票、各種検査結果の扱い、実習の記録、実習定期等）
- ⑤ 実習指導担当教員への学生の事前事後学習状況の把握・実習中止に関する手続き等の支援（各種フォーマットの作成、配布）
- ⑥ 細菌検査・予防接種抗体検査等に関する伝達・調整（実習先・学生・教員）
- ⑦ 学生健康管理センターとの連携（専門職としての健康等に関する指導、健康状況に関する相談・連携、検査結果の理解等）
- ⑧ 巡回指導担当教員の巡回先希望調査、配属調整、発表。
- ⑨ 巡回指導にかかわる手土産・謝礼・交通費などの手続き。
- ⑩ 実習に関する問い合わせの受付・伝達・調整（実習先・学生・保証人・教員）
- ⑪ 学生の実習実施状況に関する情報、実習巡回指導記録の管理。
- ⑫ 実習先パンフレット等関連資料の収集と学生への提供
- (3) 学生の個別的支援を要する事例について
 - ① 実習指導授業担当教員との連携・協議等
 - ② 障がいのある学生等修学支援委員会との連携・協議等（実習に関する支援）

2. 実習指導授業に関する業務

- (1) 授業「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案・支援
 - ① 授業実施計画の立案と実習授業・実習指導計画一覧の作成、配布
 - ② 実習指導授業の企画・運営（各種：全体、1・2年生合同、実習先別、施設種別など）
 - ③ 実習の事前・事後指導に活用する教材の編纂・印刷・配布
 - ④ 実習事前学習としての複数面談の企画・資料作成・実施。
 - ⑤ 「実習指導授業」担当教員の支援（情報提供、資料作成、予定表・フォーマット等作成等）
- (2) 「実習指導授業」の内容・方法の研究・改訂
 - ① 実習授業・実習指導計画の立案。授業「キャリアデザイン」・学事との日程調整。
 - ② 「実習ルールブック」作成、配布。
 - ③ 実習の記録（日誌）の作成、配布
 - ④ 実習評価票、出勤票の作成、配布。
 - ⑤ 改訂版「実習ステップブック」の活用。（発行日までの教材準備）
- (3) 他授業・委員会と関連した業務
 - ① 「ふれあい体験・ボランティア活動」と連携し、実習指導授業内で保育を学ぶ学生のマナー・モラルについての授業を実施
 - ② 学生の実習支援に関して健康管理センター（健康管理センター委員会）・障がいのある学生等修学支援委員会との連携

3. 2020年度の重点課題

- (1) 引き続き、個別的支援を要する学生への対応について、健康管理センター・各部署・授業担当教員との連携・協議を図る。（新規導入される障がいのある学生等修学支援申請書による円滑な連携・支援方法、学生委員会・授業担当教員ほかとの具体的な連携方法の構築）

- (2) CDC 委員会、ポートフォリオ WG との連携による実習指導内容の精査・充実。
ポートフォリオ・GoogleClassroom を活用した学生への連絡について検討・充実。特に 2019 年度改編した事前学習教材「生活技術に関する資料」の検証・活用
- (3) 2020 年度実習サポートセンター体制での職務分掌・作業や連絡時期と方法の検討、2019 年度の協力体制・支援の質の維持を実現する。更に迅速・丁寧・正確・充実した学生・指導担当教員の支援の向上を目指す。
- (4) 実習管理システムの改善を継続し、情報提供の質の向上を図る。
- (5) 学生・実習先等の情報を護る観点から、情報公開の方法や時期について検討、より確実な方法を探る。
- (6) 引き続き、実習先・学生・授業担当教員・関連部署との確実な連絡・調整・協議を可能にする支援・作業方法の周知を目指す（書類・各種フローチャート・メール・電話等）。特に、指導担当教員向けの資料として実習事前中止・追再実習に関する指導・手続の流れ・事例などを周知する方法を整える。
- (7) 引き続き、各実習ごとに定められた実習(学習)の内容・目標、本学の実習実施・単位認定のルールなど、基礎的・基本的な実習指導内容を確実に修められる、全クラス共通のカリキュラムの実践を目指し、テキスト「実習ステップブック」・「実習ルールブック」・「実習の記録」を活用した授業実践支援方法の研究・改善・充実に努める。
- (8) 学生の事前・実習中・事後の学習の充実・向上に大きく関わる「実習の記録」(日誌)の作成について、引き続き、授業「教育・保育カリキュラム論」「特別支援保育Ⅰ」指導担当教員との連携を図り、改善された指導内容を実習先と共有・連携を目指す。
- (9) 学習意欲・学習効果を高め、学習の目標を明確にイメージする授業内容を目指す。グループ・全体・1.2 年生共同・グループ合同・施設種別・実習先別授業など学習内容に最適な授業形態を工夫、また LC・CDC を活用した自己学習の連携・構成を図る。
- (10) 引き続き、質の高い実習教育を目指す実習先との連携の強化を図る。特に、ミニマムディマンドについて、「実習の記録」の教育目的の周知、「実習の記録・ドキュメンテーション形式」の解説、施設実習の記録に関する記述の充実、実習に前向きに臨むことを可能にする実習先オリエンテーション・実習先からの事前学習課題などについて、最新の情報や学生の状況を提供・共有・検討し改善を目指す。

地域連携推進センター委員会（委員長 櫻井 奈津子）

本委員会のもとに以下の委員会を置き、それぞれのワーキンググループを中心に活動を行う。

【図書委員会】（委員長 櫻井奈津子）

1. 研究紀要発行に関する検討
 - ①査読付き論文を含む研究紀要第 41 号の発行
 - ②研究紀要の電子化の検討
2. 特設展示の充実
 - ①新着図書紹介
 - ②各種特集図書の別置・企画展示
3. 蔵書の充実
 - ①保育に関する専門書及び絵本の充実

- ②選書バイヤーツアーによる蔵書購入
- 4. 図書館利用者サービスの向上
 - ①書架案内表示の充実
 - ②A Vルーム・共同研究室の充実
 - ③卒業生・入学予定者の利用について周知する。
 - ④すまいりい参加者・市民大学講座受講者等、地域住民が利用しやすい環境づくりに努める。
- 5. 図書館利用者のモラル向上
 - ①人的環境整備（掲示・声かけ等の取り組み強化）
 - ②図書未返却者への督促強化
 - ③資料の紛失等への対策強化
 - ④利用者の拡大に伴い、防犯対策の充実を図る。
- 6. 図書館ワークスタディアルバイト学生の活用
- 7. 図書館サポーター活動の充実
 - ①選書ツアー（3. ②）
 - ②POP製作・展示
 - ③学生からの意見・提案聴取
- 8. 図書館主宰イベントの実施
 - ①折り紙コンテスト
 - ②クリスマスイベント（お楽しみ抽選会）
- 9. 図書館ホームページの充実
- 10. ラーニングセンターwillとの連携
- 11. 相模原市内大学図書館と相模原市立図書館との相互協力連絡会への参加

【地域連携推進委員会】（委員長 井狩 芳子）

地域と連携して行う活動の窓口となり、定例的に行っている以下の活動を中心に、随時地域貢献事業を検討、実施する。

I. 地域連携プログラムワーキンググループ（委員長 井狩芳子）

- 1. 学生のボランティア活動の支援・情報提供に関すること
 - ① ボランティア募集に関する情報提供と実施に関する支援
 - ・ボランティア活動の推奨、パンフレット・チラシ・ポスター等の掲示・配付
 - ・ボランティア活動届の配付・受付
 - ② 相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度への応募促進
 - ・学生に対するボランティア活動の推奨と本制度の周知
 - ・相模原市への推薦業務（年度末）
- 2. オレンジリボン活動（相模原市包括連携協定校事業関連）への協力
 - ①オレンジリボン作成・リボンの街頭配布への学生参加
 - ②学内・ユニコムプラザ内本学ブースにオレンジリボン配置
 - ③学内に子ども虐待防止の啓発ポスター等の掲示

3. ユニコムプラザ第8回まちづくりフェスタ参加

4. さがまちコンソーシアム関連

①令和2年度「市民大学」への講師派遣

②さがまちカレッジへの講師派遣

③さがまちインターンシップ、さがまち学生 Club 等学生参加の活動の紹介し、参加を促す

5. 関連事項・ニュース等の把握・広報

II. 子育て支援プログラム（はっぴい・すまいいい）ワーキンググループ（委員長 久保小枝子）

1. 子育て広場「はっぴい」の開催（年間9回＝4. 8. 10月を除く毎月1回、土曜日）

従来年間10回開催してきたが、いずみ祭開催期間と重なる10月は、準備・実施のための時間を確保することが難しいため、2020年度については9回開催とする。

①子育て家族への支援

安心・安全な遊び場の提供と、季節に応じた活動、良質の文化・芸術に触れる体験の提供
保育支援者によるサポート体制を整え、参加者からの相談に応じる。

ワーキンググループ委員の他、専任教員の参加（年1回）

②学生に実践的な学びの場を提供する

乳幼児とのふれあい・保護者とのコミュニケーションの場の提供

学生主体の企画を発表する場の提供

事前準備から当日終了までの計画立案・環境整備に関わる機会の提供

参加学生との交流・実践的研修の提供

③入学前教育プログラムとして高校生参加の機会を設定する

④卒業生との連携

活動時のボランティア受け入れ

子育て世代の親子参加の促進

同窓会広報活動への協力

⑤他学との連携

8月、にこにこベジタブルランドにサツマイモ畑の草刈を東京農大の学生、教員と「はっぴい」に関わる学生、教員が共同で作業。続けて、サツマイモの栽培方法、乳幼児に与える影響など学習交流会を企画

⑥その他

参加保護者への聞き取り、学生への調査を実施し、地域貢献活動のあり方・学生の現状と要望を探る

2. CDCの整備及び子育て広場「すまいいい」（施設開放：毎週木曜日の実施）との連携

①地域親子にCDCを遊び場、子育て支援の場として開放する

保育環境として相応しい維持整備を継続する

②学生の保育就業力を支える実践の場としての環境整備

児童福祉研究室（室長 平沼 晶子）

児童福祉研究室は、法人創立 60 周年を機に、和泉短期大学の建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を具現化するため、2017 年 11 月に設立された。その目的は、本学教員の専門性および教育研究活動の成果を発信し、地域の保育・福祉に貢献することにある。この目的を達成するために、児童福祉研究室が行う事業として、次の 5 項目が和泉短期大学児童福祉研究室規程に定められている。

- (1) 保育・福祉に関する研究および研修会・講演会の開催等
- (2) 本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行
- (3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援
- (4) 定年退職者の最終講義録の刊行物掲載
- (5) その他、児童福祉研究室の目的の達成に必要な活動

まずは、(2) 本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行に相当する事業を展開することとして、2018 年度は児童福祉研究「いっしょに子育て」を創刊し、2019 年度も第 2 号を発行した。

2020 年度においても、引き続き「いっしょに子育て」第 3 号を発行して、子育てに関する親しみやすい内容を提供すると同時に、地域住民と和泉短期大学の結びつきの強化を図りたいと考えている。

2020 年刊行の児童福祉研究「いっしょに子育て」第 3 号の大枠は以下を計画している。

- ① 子どもの育ちに関する専門的知見からの提言
- ② 保育・福祉に関する教育研究活動に基づいた提言
- ③ 海外の保育・子育て事情に関するレポート
- ④ 子育てに役立つ情報提供等

また、2020 年度は地域の子育てへの更なる貢献を目指して、(3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援に関わる活動を検討していく。

7. 広 報 活 動

(1) 製作・発行物

・入学案内書一式	2020年	3月下旬発行予定
・奨学金リーフレット	2020年	3月下旬発行予定
・オープンキャンパス告知ポスター	2020年	3月下旬配布予定
・首都圏高等学校送付入学案内書パック	2020年	4月下旬発送予定
・IZUMI NEWS 45号	2020年	5月下旬発行予定
" 46号	2020年	8月上旬発行予定
" 47号	2020年	12月上旬発行予定
" 48号	2021年	3月中旬発行予定
・受験生向けダイレクトメール ①(夏のオープンキャンパス)	2020年	7月上旬発送予定
・ " ②(いずみ祭)	2020年	9月下旬 "
・ " ③(クリスマスカード)	2020年	12月上旬 "
・ " ③(3月オープンキャンパス)	2021年	2月上旬 "

(2) 主催型広報活動

- ・高等学校教員対象進学説明会（5月に2回）
- ・高大接続授業研究プログラム（8月）
- ・和泉プレカレッジ（2月高校2年生対象）
- ・オレンジリボンキャンペーン（相模原市と共催）（11月）
- ・オープンキャンパス

第1回	4月18日（土）
第2回	5月24日（日）
第3回	6月14日（土）
第4回	7月19日（日）
第5回	8月1日（土）
第6回	8月22日（土）
第7回	3月27日（土）

- ・ミニオープンキャンパス

第1回	5月9日（土）
第2回	6月6日（土）
第3回	7月11日（土）
第4回	7月25日（土）
第5回	9月5日（土）
第6回	10月10日（土）
第7回	11月1日（日）いずみ祭
第8回	11月21日（土）
第9回	12月5日（土）
第10回	1月23日（土）

・ナイトミニオープンキャンパス

第1回	6月24日（水）
第2回	9月16日（水）
第3回	9月23日（水）

（3）参加型広報活動

- ・相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」（通年）
- ・高等学校内ガイダンス・模擬授業（随時）
- ・かながわ短大フェア（神奈川県私立短期大学協会）（4月）
- ・進学相談会（会場形式）（随時）
- ・「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」（かながわ大学生涯学習推進協議会）（7月・9月）

（4）公開講座

- ・市民大学（相模原市・座間市と共催）前期・後期2講座
- ・さがまちカレッジ「中学生対象講座」（12月）

和 泉 短 期 大 学

雑誌・交通広告等掲載

(2020 年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
(株)ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1 年間
(株)ビー・プライム	本学ホームページ公式サイト動画制作	1 年間
(株)リクルートマーケティングパートナーズ	スタディサプリ進路/OC ストーリーズ (インターネット商品)	1 年間
	進学事典	1 月
	進学事典	4 月
キッズコーポレーション(株)	学校ガイド進学ナビ (インターネット商品)	1 年間
	進学の森 大学・短大カタログ	4 月
(株)さんぼう	短期大学まるわかり事典	4 月
(株)昭栄広報	進路ノート (大学・短期大学編)	4 月
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK (インターネット含む) 学校見学ノート	4 月
(株)進路企画	大学・短大ガイドブック	4 月
ライン(株)	LINE	1 年間
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4 月
	進路テキスト進学編 オープンキャンパス日程一覧	
(株)日東システム開発	ベスト進学ネット (インターネット商品)	4 月
(株)進学教育研究社	「ガマダス」説明会配布用大学ガイド	4 月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	4 月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5 月
(株)タウンニュース社	タウンニュース 暑中お見舞い号・名刺広告 Web 掲載	7 月
	〃 元旦号・名刺広告	1 月
神奈川案内広告(株)	神奈川新聞 迎春名刺広告	1 月
(株) ショッパー社	新年名刺広告	1 月
(一社) キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10 月
神奈川中央交通(株)	バス停正式名称「和泉短大前」保守管理	1 年間
廣告社(株)	小田急線まど上連合広告	1 年間

2020年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

(教員関係経費)

金額

11,490

研究費

児童福祉学科

単価

教員数

○ 教 授	270	×	7	1,890
○ 特 任 教 授	270	×	1	270
○ 准 教 授	260	×	6	1,560
○ 専 任 講 師	250	×	2	500
○ 助 教	50	×	2	100
○ 助 手	50	×	1	50
○ 昇 任 予 定 者	10	×	2	20
			19	計 4,390

専攻科

単価

○ 准 教 授	260	×	1	260
○ 特 任 教 授	270	×	1	270
○ 特 任 准 教 授	260	×	1	260
			3	計 790
			22名	合 計 (5,180)

学長裁量費

○ 共同研究費	1,300
○ 大学教育改革プログラム	
	計 1,300

合計 6,480

教材費

○ 専任・非常勤教員	短大・専攻科	2,810
------------	--------	-------

旅費交通費

○ 学 会 参 加	1回 @50限度	1人 2回	22名	2,200
-----------	----------	-------	-----	-------

(施設)

120,796

土 地	内 容	設置場所	金額
○ 土 地 (1,536㎡) <第2号基本金>	スクールバス駐車場	2号館隣地	繰 延 ① 100,000
※ 2019年度から繰り延べ			
建 物	○ 空調機チラー(熱交換温度調整装置)	2台 3号館	取替更新 ② 17,025
	○ エアコン (宗教センター)	1台 3号館	取替更新 ② 605
	○ 第1受変電設備内 プレーカー (8)、コンデンサー (1)	9台	取替更新 ③ 3,166
			計 (20,796)

(設備)

1,018

内 容	設置場所
教育研究用機器備品	学修成果の可視化に関するICT関連費は2020年度中に十分検討して予備費で支出する。
管理用機器備品	
	計 (0)
図 書	○ 児童福祉学科 998 専攻科 20 図書館
	計 (1,018)

2020年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規及び主な経費	内 容	数	場 所	金 額
実 験 実 習 費	○ 実習謝礼品	幼稚園・保育所・施設	4回	12,363
	○ 巡回経費	〃	500園	1,641
	○ 実習連絡会	〃	2回	763
	○ 印刷費・通信費他	〃		1,728
	○ 栄養実習材料費			205
計 (				16,700)
消 耗 品 費	○ ガス警報器	栄養実習室	14台	取替更新 ⑥ 99
	○ 非常食備蓄品(キャンディ他)		1,500	備蓄庫 新規 ⑥ 483
	○ 植栽(ハナミズキ他)	現物寄付(寄贈)	50本	食堂出入口前 新規 ⑥ 176
	○ 照明器具交換(LEDに交換)			教 室 1,398
	○ 学生証(Suica他付き)		210	607
	○ 植物プランター他			学内外 251
計 (				3,014)
印 刷 費	○ 児童福祉研究室	刊行誌	2,000	460
	○ カルテファイル		210	242
	○ 学生手帳		270	730
	○ 研究紀要		350	539
	○ 教職研究		250	170
	○ 自己点検・評価報告書		200	111
計 (				2,252)
光 熱 水 費	○ 電気			10,718
	○ 水道			1,611
	○ プロパンガス			1,181
計 (				13,510)
通 信 費	○ インターネット基本料、デジタルサイネージ通信料			35
	○ 保護者宛学生成績、保証人会、学納金等通知			518
	○ 電話料			685
計 (				1,238)
維 持 修 繕 費	○ 外壁・防水塗装シーリング打ち替え工事	3号館		新規 ④ 26,203
	○ 空調機 チラー付帯工事費	3号館		取替更新 ② 853
	○ 舞台階段滑り止め	3号館		新規 ⑥ 252
	○ 屋根棟木板金交換工事	3号館		新規 ⑥ 821
	○ テニスコート人工芝メンテナンス	4号館		新規 ⑥ 715
	○ エレベーター機能維持工事	4号館		新規 ⑥ 1,375
	○ 外部ブリッジ床シート貼り替え工事	4号館		新規 ⑥ 616
	○ 床走行式電動介護リフト	2号館		新規 ⑥ 206
	○ 校舎維持管理費	1,2,3,4号館		1,194
	○ 出席管理システム保守料			698
	○ 既存施設設備修繕費			2,800
	○ 構内樹木剪定		校地・グラウンド	2,507
計 (				38,240)
支 払 報 酬 手 数 料	○ 受変電設備工事 調査費他	第1変遷設備		取替更新 ③ 918
	○ 学修成果の可視化 アセスメントテスト	教務委員会	1年生 205名、2回	新規 ⑦ 1,015
	○ 校舎 管理人業務費+機械警備費	校舎、農園、グラウンド		新規 ⑥ 6,286
	○ スクールバス運行費		4台	34,454
	○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬、社労士			3,843
	○ 校医料、健康診断料			817
	○ 食堂委託管理費			2,515
	○ 業務用システム維持支援費		教学・広報	1,007
	○ 学生・教職員安全確認システム			1,007
計 (				51,862)

2020年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規等の主な経費

内 容	数	場 所	金 額
賃 借 料			
○ ファイアオール	セキュリティ強化	学内パソコン	⑥ 785
○ 職員用 パソコン	デスクトップ 24台、サーバー2台	事務局	1,252
○ 防犯カメラシステム一式	19カ所	学内外	684
○ 教員用ノートパソコン	23	研究室	521
○ 学生用パソコン	ノート 50台	212教室	1,532
○ スクールバス	リース(5年) 4台	大型3台、中型1台	取替更新 ※ 19,451
○ コピー機、ファックス、他	事務局・2号館	4台他	631
○ 借植木	大鉢 8、中鉢 5	1号館	385
○ 公用車	リース(5年) 軽自動車	1台	360
○ スクールバス駐車場賃料(2号基本金対象)	2号館隣地	1,493㎡	2,400
計 (			28,001)
奨 学 費			
(給 付)			
○ 高等教育の修学制度による奨学費	1年23名、2年12名	入学金・授業料	⑤ 27,450
○ 専攻科 学業修学資金	1名		300
○ 眞鍋記念奨学金	10名		650
○ 児童福祉奨学金	4名	1年 3名、2年 1名	500
○ 卒業生・在学生家族	11名		550
○ 学修奨励奨学金	20名		1,470
○ ボランティア活動奨励奨学金	1名		50
○ 愛のいずみ基金奨学金	3名		500
計 (			31,470)
広 報 宣 伝 費			
○ 入学案内書、媒体広告他			21,164
計 (			21,164)
清 掃 費			
○ 日常清掃、定期清掃		全 館	14,469
計 (			14,469)
既存建物撤去費			
○ チラー、空調機 更新による既存部撤去費	3号館	取替更新 ②	1,317
計 (			1,317)
雑 費			
○ 外壁・防水塗装シーリング打ち替え工事	3号館	新 規 ④	197
○ 受変電設備工事 産廃処分費	受変電設備	取替更新 ③	99
○ 屋根棟木板金交換工事	3号館	新 規 ⑥	105
○ 外部ブリッジ床シート貼り替え工事	4号館	新 規 ⑥	44
○ SD・FD研修会費			200
○ 朝食補助、学生フェア、ウエルカムパーティー			474
○ 卒業パーティー補助、卒業記念品			412
計 (			1,531)

※ 主な事業計画(新規)

① 土地取得経費	2号館隣接地	総 額 ①	100,000
② 空調機チラー(熱交換温度調整装置)交換	2台 3号館	総 額 ②	19,800
年2回のヒートポンプチラー点検時に耐用年数超過(28年)、冷媒(オープン層破壊のフロンガス)生産中止			
③ 第1受変電設備内 プレーカー(8)、コンデンサ(1)	取替更新	総 額 ③	4,183
④ 外壁・防水シーリング打ち替え工事	3号館	総 額 ④	26,400
⑤ 奨学費(高等教育の修学支援制度)	35名 補助金対象	総 額 ⑤	27,450
2020年度修学支援新制度制定に伴う、入学金、授業料等の減免措置による奨学費			
⑥ その他(新規事業・維持修繕関係経費)		総 額 ⑥	11,963
⑦ 学修成果の可視化(アセスメントテスト)	教務部 新 規	総 額 ⑦	1,015

計 190,811

資金収支計算書（2016年度 ～ 2020年度）

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

					予 算	予 算
		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	692,728	592,494	489,802	489,230	475,520
	手 数 料 収 入	7,808	7,135	7,120	8,155	6,660
	寄 付 金 収 入	4,003	3,545	1,870	1,500	1,000
	補 助 金 収 入	41,111	61,024	50,657	34,070	59,550
	資 産 売 却 収 入	0	0	15,756	0	0
	付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入	1,869	1,261	642	5,662	18,868
	受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	9,322	14,994	16,555	19,465	19,582
	雑 収 入	11,178	19,874	10,411	11,050	18,242
	借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0
	前 受 金 収 入	191,565	170,420	168,970	213,450	145,700
	そ の 他 の 収 入	50,577	20,454	50,234	126,088	123,949
	資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 239,845	△ 210,822	△ 183,954	△ 176,067	△ 159,502
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	2,069,085	2,120,984	2,125,578	2,031,774	1,893,000
	合 計	2,839,401	2,801,363	2,753,641	2,764,377	2,602,569
支出の部	人 件 費 支 出	397,141	401,712	392,180	395,713	406,732
	教 育 研 究 経 費 支 出	153,843	97,703	103,222	114,528	149,885
	管 理 経 費 支 出	105,112	98,188	114,549	108,927	119,443
	借 入 金 等 利 息 支 出	0	0	0	0	0
	借 入 金 等 返 済 支 出	0	0	0	0	0
	施 設 関 係 支 出	1,470	7,498	20,463	108,785	120,796
	設 備 関 係 支 出	7,771	5,055	4,481	1,723	1,018
	資 産 運 用 支 出	46,536	75,234	69,237	69,754	669,818
	そ の 他 の 支 出	8,290	7,977	23,499	9,175	15,766
	予 備 費 支 出	0	0	0	30,000	30,000
	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 1,746	△ 17,582	△ 5,764	△ 1,630	△ 13,635
	翌 年 度 繰 越 支 払 資 金	2,120,984	2,125,578	2,031,774	1,927,402	1,102,746
	合 計	2,839,401	2,801,363	2,753,641	2,764,377	2,602,569
資 金 収 支 差 額		51,899	4,594	△ 93,804	△ 104,372	△ 790,254
短 期 大 学 学 生 数		565名	481名	402名	399名	401名
収 用 定 員 (500名) 充 足 率		112.8%	95.8%	80.8%	78.6%	80.4%
専 門 学 校 (専 攻 科) 学 生 数		18名	23名	8名	4名	15名
前 年 度 対 比 学 生 数		△ 1名	△ 79名	△ 94名	△ 7名	13名

事業活動収支計算書（2016年度～2020年度）

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

							予 算		予 算			
科 目		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		
		金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	692,728	90.2%	592,494	85.3%	489,802	86.0%	489,230	86.0%	475,520	79.3%
		手数料	7,808	1.0%	7,135	1.0%	7,120	1.3%	8,155	1.4%	6,660	1.1%
		寄付金	4,003	0.5%	3,628	0.5%	1,870	0.3%	1,500	0.3%	1,176	0.2%
		経常費補助金	41,111	5.4%	55,608	8.0%	40,453	7.1%	34,070	6.0%	59,550	9.9%
		付随事業収入	1,869	0.2%	1,261	0.2%	642	0.1%	5,662	1.0%	18,868	3.1%
		雑収入	11,178	1.5%	19,874	2.9%	13,097	2.3%	11,050	1.9%	18,242	3.0%
		教育活動収入計	758,697	98.8%	680,000	97.8%	552,984	97.1%	549,667	96.6%	580,016	96.7%
	事業活動支出の部	人件費	392,950	51.2%	398,813	57.4%	390,102	68.5%	393,596	69.2%	401,764	67.0%
		教育研究経費支出	214,811	28.0%	156,490	22.5%	162,281	28.5%	176,613	31.0%	204,556	34.1%
		(減価償却額)	60,973	8.5%	58,703	8.9%	59,061	8.8%	62,085	9.0%	54,495	7.4%
		管理経費支出	111,164	14.5%	105,753	15.2%	121,618	21.4%	116,172	20.4%	127,134	21.2%
		(減価償却額)	7,180	1.0%	7,369	1.1%	7,369	1.1%	7,245	1.1%	7,691	1.0%
		教育活動支出計	718,925	93.6%	661,056	95.1%	674,001	118.3%	686,381	120.6%	733,454	122.3%
	教育活動収支差額		39,772	5.2%	18,944	2.8%	△ 121,017	-21.9%	△ 136,714	-24.9%	△ 153,438	-26.5%
教育活動外収支の部	事業活動収支の部	資産運用収入	9,322	1.2%	14,994	2.2%	16,555	2.9%	19,465	3.4%	19,582	3.3%
		教育活動外収入計	9,322		14,994		16,555		19,465		19,582	
		教育活動外支出計			0							
		教育活動外収支差額	9,322		14,994		16,555		19,465		19,582	
経常収支差額		49,094	6.4%	33,938	4.9%	△ 104,462	-18.3%	△ 117,249	-20.6%	△ 133,856	-22.3%	
特別収支の部	事業活動収支の部	資産売却差額	0		0		15,756		0		0	
		その他の特別収入	0	0.0%	7,785	1.1%	10,636	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
		特別収入計	0		7,785		26,392		0		0	
		資産処分差額	359		654		328					
		その他の特別支出	446		662		495		0		0	
		特別支出計	805		1,316		823		0		0	
		特別収支差額	△ 805		6,469		25,569		0		0	
【予備費】								30,000		30,000		
事業活動収入		768,019		702,779		595,931		569,132		599,598		
事業活動支出		719,730		662,372		674,824		716,381		763,454		
基本金組入前当年度収支差額＝事業活動収支差額		48,289		40,407		△ 78,893		△ 147,249		△ 163,856		
基本金組入額		△ 5,638		△ 10,657		△ 22,327		△ 6,773		△ 9,580		
当年度収支差額		42,651		29,750		△ 101,220		△ 154,022		△ 173,436		
前年度繰越収支差額		2,861,924		2,927,575		2,957,325		2,856,105		2,702,084		
基本金取崩額		23,000	第4号基本金	0		0		0		0		
翌年度繰越収支差額		2,927,575		2,957,325		2,856,105		2,702,084		2,528,648		
事業活動収支差額比率		6.3%		5.7%		-13.2%		-25.9%		-27.3%		

教育活動収入－(教育活動支出－減価償却費)	107,925		85,016		△ 54,587		△ 67,384		△ 91,252		
-----------------------	---------	--	--------	--	----------	--	----------	--	----------	--	--

	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度	
基本金組入額	△ 5,638	0.7%	△ 10,657	1.6%	△ 22,327	4.0%	△ 6,773	1.2%	△ 9,580	1.7%
(第1号基本金組入額)	△ 5,023	0.7%	△ 10,042	1.5%	△ 20,452	3.7%	△ 4,958	0.9%	△ 107,671	18.6%
(第2号基本金組入額)		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	100,000	-17.2%
(第3号基本金組入額)	△ 615	0.1%	△ 615	0.1%	△ 1,875	0.3%	△ 1,815	0.3%	△ 1,909	0.3%
(第4号基本金組入額)	0		0		0		0		0	